

# リマホナ



**アメージング・グレース  
(主の驚くべき恵み),  
10,12ページ**

なぜセミナリーに行くのでしょうか,  
20, 46, 48ページ

親の皆さん, 子供と話す時間を取ってください,  
34ページ

子供の皆さん, 親と話す時間を取ってください,  
58ページ



ミニアボリス（アメリカ合衆国ミネソタ州）美術館、フナム・ダナ・マミソノ基金の厚意により撮影。複写は禁じられています。

### 「聖ペテロの否定」 ヘリット・ファン・ホントホルスト

「すると、ある女中が、〔ペテロ〕が火のそばにすわっているのを見、……『この人もイエスと一緒にいました』と言った。  
ペテロはそれを打ち消して、『わたしはその人を知らない』と言った。  
しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、『あなたもあの仲間のひとりだ。』するとペテロは言った、『いや、それはちがう。』  
……またほかの者が言い張った、『たしかにこの人もイエスと一緒にだった。』  
ペテロは言った、『あなたの言っていることは、わたしにわからない。』すると、……たちまち、鶏が鳴いた。  
そして〔ペテロは〕外へ出て、激しく泣いた。」（ルカ 22：56 - 60, 62）



## メッセージ

4 大管長会メッセージ——  
「主はよみがえられました」  
——預言者の証<sup>あかし</sup>  
トーマス・S・モンソン大管長

7 家庭訪問メッセージ——  
愛し、見守り、強める

## 特集

12 贖罪と現世の旅<sup>しよくざい</sup>  
デビッド・A・ベドナー長老  
贖罪は、善を行い、善人になり、  
自分の望みや能力を超えた働き  
ができるようにわたしたちを強め  
てくれます。

20 セミナリーの祝福  
ブリタニー・ピーティ  
世界各地に住む青少年が、セミナ  
リーがどのようにキリストのもと  
に来る助けとなっているか話して  
います。

26 改宗者への召し  
ヘレナ・ハノネン  
支部ピアニストの召しを果たすた  
めに、家族もわたし自身も多くの  
犠牲を払いました。でもその経  
験に感謝しています。

30 機能するワード評議会  
ラリーシ・ガント  
だれがワード評議会に所属して  
いて、彼らは何を達成しますか。

## シリーズ

8 4月の大会ノート——  
総大会からより多くを学ぶ  
マイケル・バーバー、  
デビッド・マーシュ

10 キリストについて語る——  
アメージング・グレース  
クリステン・ニコル・カードン

34 わたしたちの家庭、  
わたしたちの家族——  
語り合い、耳を傾ける  
時間を持つ  
ローズマリー・M・ウィクソム

38 末日聖徒の声

74 教会のニュース

79 家庭の夕べのためのアイデア

80 また会う日まで——  
贖いに希望を持つ<sup>あがな</sup>  
リチャード・C・エッジリー・ビショップ

### 表紙

表紙——「わたしにさわってはいけない」  
ミネルバ・タイカート画、ブリガム・ヤング大学  
美術館の厚意により掲載。  
裏表紙——「わたしの手を見なさい」の一部、  
ジェフ・ワード画。



42 みんなブレックを知っている

アダム・C・オルソン

ブレックはバスケットボールが大好きです。それは彼にとって試しでも祝福でもあります。



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている  
リアホナを  
さが  
捜しましょう。  
ヒント——  
みぎがわ  
右側のページを  
えら  
選びましょう。



46 質疑応答

「自分でも聖文は研究できるのに、なぜセミナーに行く必要があるのでしょうか。」

48 なぜセミナーに行くのか

7人の預言者がセミナーの祝福について語っています。

50 エクアドルにある  
ジャングルの中のセミナー

ジョシュア・J・パーキー

改宗して間もない人が大半を占める新しい支部のセミナーに、証と知識と信仰にあふれる青少年たちが集っています。

52 セミナーの後には  
何があるのでしょうか

デビッド・A・エドワーズ

あなたへのインスティテュートの招待状です。

53 教えに教え——

2 テモテ 3 : 16 – 17

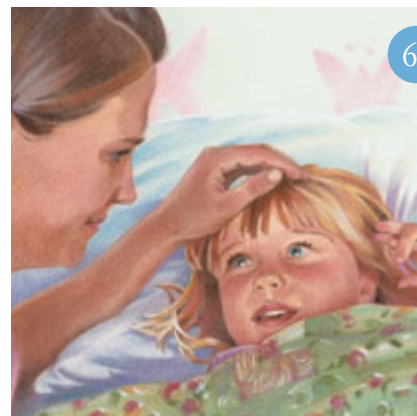
54 墜落しないように

アダム・C・オルソン

今少し注意して準備をしておけば、後で大きな問題が起こらずに済みます。

57 ポスター——

聖文の世界に浸る



58 お話の時間

ヒラリー・ワトキンス・レモン

ジョシーは学校での出来事に気が沈んでいました。でも、そのことを話すことで元氣になりました。

61 主は死のなわ目をたたれた

パトリック・キアロン長老

わたしたちが生き返って、天のお父様や家族と一緒に再び住むことができるように、救い主は死後復活されました。

62 しょうきょうかいを かていでも

—— イエス・キリストは

せいぎを えらぶように

教えて おられます

64 音楽—— イエス様のように

ジャンス・カップ・ペリー

66 同じ名前と信仰を持つしまい

ヘザー・リグレー

ルーマニアに住むしまいが、どのよう信仰を強めているか話しています。

68 特別な証人——

わたしのために立てられた天のおん父の計画に従うために、わたしに何ができるでしょうか  
リチャード・G・スコット長老

69 わたしの福音の標準

70 ちいさな おともだちへ

81 モルモン書に 出てくる  
じんぶつなどの 絵

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・パイパー

顧問: キース・R・エドワーズ, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, ペア・G・マーム

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・パレット, ライアン・カー

編集スタッフ: プリタニー・ピーティ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ボーター, ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, リア・マクラナハン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキン, チャド・E・ファレス, ジャック・ピンボロ, ボール・バンデンバーク, マリッサ・A・ウイティン, メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, コリー・ヒンクレイ, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オーズ, コニー・ボウソープ・ブリッジ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテット, レジナルド・J・クリステンセン, ブライアン・W・ギュギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長代理: 藤谷繁樹

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大会号 120円

『リアホナ』へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ [liahona.lds.org](http://liahona.lds.org) からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。  
Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メール: [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。  
アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2012 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — [cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

**For Readers in the United States and Canada:**  
April 2012 Vol. 36 No. 4. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

## 成人

この号の幾つかの記事は救い主について教え、証しています。JesusChrist.Lds.org にアクセスして救い主についてもっと学びましょう。

## 青少年

この号の幾つかの記事はセミナーの祝福について述べています(20-25ページ, 46-53ページ参照)。seminary.Lds.org にアクセスして、セミナーについてもっと知りましょう。

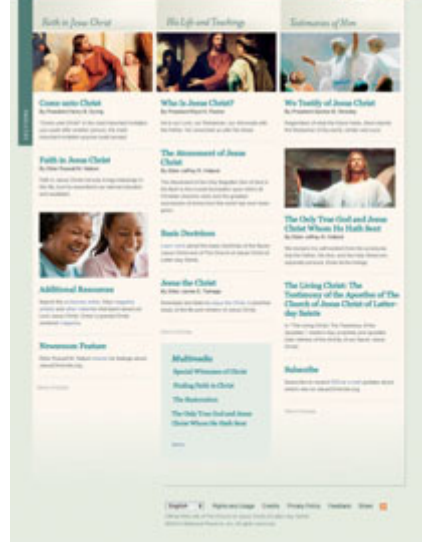
## 子ども

liahona.Lds.org にアクセスして、「イエス様のように」(64-65ページ)を聞きましょう。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- 願い, 4, 12, 61, 62, 80
- イエス・キリスト, 4, 10, 12, 61, 64, 70
- 祈り, 41
- インスティテュート, 52
- 音楽, 26, 64
- 家族, 34, 42, 58, 66
- 希望, 80
- 教会の召し, 26, 30
- コミュニケーション, 34, 58
- 従順, 54
- 準備, 54
- 聖文研究, 53, 57, 68
- セミナー, 20, 46, 48, 50
- 総大会, 8
- 伝道活動, 42
- 評議会, 30
- 標準, 69
- 復活, 4, 61, 62, 70
- 恵み, 10, 12
- モルモン書, 38
- 靈感, 39, 40



## あなたの言語で

www.languages.lds.org で、『リアホナ』や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

トーマス・S・  
モンソン大管長

# 「主は よみがえられました」

## 預言者の証<sup>あかし</sup>

**ナ**ザレのイエスが死者の中からよみがえられたという事実こそ、「全キリスト教徒に響き渡るおとずれ」であると、トーマス・S・モンソン大管長は宣言しています。「復活の事実こそが、すべての人に、人知では計り知れない平安をもたらすのです。」(ピリピ4:7参照)<sup>1</sup>

次の抜粋の中で、モンソン大管長は救い主の復活に対する証と感謝の気持ちを述べ、御子が死に打ち勝たれたことにより地上にやって来る御父のすべての子供が再び生きられるようになったことを宣言しています。

### 現世を越えた命

「キリストがゲツセマネにおいて全人類のためにしてくださったことの重要性を、完全に理解できる人はいないでしょう。それでもわたしは、わたしたちのための主の贖<sup>あがな</sup>いの犠牲に日々感謝しています。

最後の瞬間、主は背を向けることもおできになりました。しかし、そうはなさいませんでした。主は万物を救うことができるように、万物の下に身を落とされたのです。それにより現世を越えてわたしたちに命を与えてくださいました。アダムの墮落からわたしたちを引き上げてくださいました。

わたしは心の底から主に感謝しています。主はどのように生きたらよいかを教えてくださいました。どのように命をささげることができるか教えてくださいました。そして救いを約束してくださったのです。」<sup>2</sup>

### 死の暗闇<sup>くらやみ</sup>を追いやる

「ひどい苦痛や病気といった特別な状況にある人には、死は、憐れみの天使として訪れますが、ほとんどの場合、わたしたちは死を人の幸福の敵と考えます。

回復された真理の光は、死の暗闇を追いやります。主は

言われました。『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』

墓を超えた命というこの確信、そうです、この神聖な確証こそ、救い主が約束された平安を与えてくれるものです。主は弟子たちに約束されました。『わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。』<sup>3</sup>

### そのかたは、ここにはおられない

「救い主は生き返られました。人類の歴史の中で、最も輝かしく、慰めとなり、安らぎを与える出来事が起きました。主が死に打ち勝たれたのです。ゲツセマネとカルバリの苦痛と苦しみはぬぐい去られていました。人類の救いが確実にになりました。アダムの墮落は贖<sup>あがな</sup>われました。

最初の復活祭の朝、空になった墓は、『人がもし死ねば、また生きるでしょうか』と尋ねたヨブの疑問の答えとなりました。わたしの声の届く限りにいるすべての人に宣言します。人がもし死ねば、また生きるのです。啓示によって与えられた真理の光があるので、わたしたちはそのことを知っています。……

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはたとえこの上なく深い悲しみにあっても、最初の復活祭の朝に天使が告げた言葉から深い平安を受けることができます。『そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。』<sup>4</sup>

### すべての人が再び生きます

「わたしたちは笑い、泣き、働き、遊び、愛し、生きます。そして、死にます。……

ナザレのイエスという御方とその使命なしには、人は



死に定まったままでいたでしょう。

……

わたしは特別な証人として、心を込め、熱い思いを尽くして、神が生きておられることを高らかに証し、宣言します。イエスは神の御子、肉における御父の独り子です。わたしたちの贖い主であり、御父と人との間の仲保者です。わたしたちの罪を贖うために、十字架上で亡くなり、復活の初穂となりました。主が命を捨てられたので、すべての人は再び生きることができます。」<sup>5</sup>

### わたしは証します

「死が克服され、墓を超えた勝利がもたらされたことを証します。御自身で成就なさることによって神聖なものとなった主の言葉が、わたしたちすべてにとって現実の知識となるように祈ります。主の言葉を、心に留め、かみしめ、敬いましょう。主はよみがえられました。」<sup>6</sup> ■

### 注

- 1.「主はよみがえられた」『リアホナ』2003年4月号、7
- 2.「別れに」『リアホナ』2011年5月号、114
- 3.「今がその時である」『リアホナ』2002年1月号、68。ヨハネ11:25-26;14:27も参照
- 4.「主はよみがえりぬ」『リアホナ』2010年5月号、89、90。ヨブ14:14;マタイ28:6も参照
- 5.「主は生けりと知る」『リアホナ』2007年5月号、24、25
- 6.『リアホナ』2003年4月号、7

### このメッセージから教える

**モ**ンソン大管長の言葉を紹介した後、復活祭の真の意味について大管長が述べている証に注目します。家族の人たちに次のように尋ねるとよいでしょう。「今日の生ける預言者がこれらの真理について証しているということは、あなたにとってどのような意味がありますか。これらの真理を自分の生活にどのように当てはめることができますか。」あなたの証を付け加えるとよいでしょう。

また会えるのです

モーガン・ウェベック

**父**は子供たち一人一人に自分は特別な存在だと感じさせてくれました。わたしたちを愛し、すぐに赦してくれました。一人一人が幸福でいられるように最善を尽くしてくれて、わたしたちに最高の喜びを得てほしいと願ってくれているのがよく分かりました。父のことが大好きでした。

でも6年生のとき、父が自動車事故で亡くなりました。家族もわたしも悲しみに打ちひしがれました。家族の中にぽっかりと大きな穴が開いたようでした。わたしは父を頼ってきました。困ったときには父に相談してきました。そんな父を失ったわたしは、助けを求めることなく、いつまでも怒りと苦悩の中にとどまっています。ついには神のせいだと思ふようになり、聖典を読むことも祈ることもやめてしまいました。教会には行きましたが、母が望んだので仕方なく行っていただけでした。わたしは天の御父から遠く離れていようと思いました。

その後、初めて若い女性のキャンプに行きました。新しい友達と

知り合うのは楽しかったですが、それでも聖典は読みませんでした。最後の夜、証会がありました。わたしは長い間感じていなかったものを感じました。御霊です。立ち上がって証する若い女性たちに尊敬の念を覚えましたが、自分には証がないと思ったので、そのまま席に座っていました。ところが突然、立ち上がらなければいけないように感じました。わたしは何を言えばよいか分からないまま、口を開きました。そこで、若い女性のキャンプに参加できてうれしいと言いました。そして気がつくと、わたしはイエス・キリストが自分のために亡くなられたこと、天の御父がわたしを愛してくださっていること、そしてこの教会が真実であることを知っていると言っていました。

わたしは驚くほどの平安に満たされました。この経験により、わたしは次のように言うことができます。救い主の贖いと復活のおかげで、また父に会えると知っています。

こども

しゅは生きておられます！

**イ**エス・キリストがなくなり、ふつつされたので、わたしたちはみんなまた生きることができると、モンソンだいかんちょうは教えています。下の絵を見てください。それぞれの四角の中に、これらのできごとがおこったじゅんばんをしめすばんごうを書きましょう。

イエス・キリストが生きておられるので、かぞくはえいえんにいっしょにいたることが出来ます。下の四角の中に、あなたのかぞくの絵をかきましょう。







祈りをもってこの資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。  
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

## 愛し、見守り、強める

**救**い主と同じように、訪問教師は一人一人を教え導きます（3 ニーフアイ 11：15 参照）。訪問先の姉妹が次のように言えるようなら、わたしたちが訪問教師としてうまく務めを果たしていることが分かります。（1）わたしの訪問教師はわたしが霊的に成長できるよう助けてくれます。（2）わたしの訪問教師はわたしと家族を心から気遣ってくれます。（3）わたしに問題があれば、訪問教師は頼まれる前に必ず何らかの行動を起こします。<sup>1</sup>

わたしたちは訪問教師として姉妹を愛し、見守り、強めるためにどのようなことができるでしょうか。『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』第7章では、訪問教師が担当の姉妹に仕えるうえで役立つ9つの事柄が提案されています。

- 姉妹とその家族のために毎日祈る。
- 姉妹とその家族について知るために靈感を求める。
- 状況を知り、慰め、強めるために定期的に訪問する。
- 訪問や電話、手紙、電子メール、携帯メール、簡単な親切な行いによって頻繁に接触する。
- 教会の集会であいさつする。
- 非常時や病気るとき、そのほか差し迫った必要が生じたときに助ける。
- 聖文や家庭訪問メッセージから福音を教える。



- 良い模範を示すことによって鼓舞する。
- 自分の奉仕と姉妹の霊的および物質的な福利について扶助協会の指導者に報告する。

### 聖文から

ルカ 10：38 - 39；3 ニーフアイ 11：23 - 26；27：21

### 注

1. ジュリー・B・ベック「扶助協会について孫娘たちに理解してほしいこと」『リアホナ』2011年11月号、113参照
2. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』112
3. 『わたしの王国の娘』120
4. プリガム・ヤング、「Remarks,」*Deseret News*, 1856年10月15日付、252
5. 『わたしの王国の娘』36 - 37 参照

### 何ができるでしょうか？

1. 担当の姉妹たちが必要としている事柄を知るにはどうすればよいでしょうか。
2. あなたが心から気遣っているということを、担当の姉妹たちはどのようにして知ることができますか。

### わたしたちの歴史から

「家庭訪問は世界中の末日聖徒の女性が愛し、養い、仕えるための手段、すなわちジョセフ・スミスが教えたように、『神が〔わたしたちに〕植え付けられた思いやりの精神に従って行動』するための手段となっています。』<sup>2</sup>

少し前に夫を亡くしたある姉妹は、自分の訪問教師について次のように述べています。「彼女たちは聞いてくれました。慰めてくれました。一緒に涙を流してくれました。そして抱き締めてくれました。……独りぼっちになって最初の数か月間、深い落胆と絶望から抜け出すのを助けてくれました。』<sup>3</sup>

物質的な務めを助けることも、教え導くことの一つの形です。1856年10月の総大会で、プリガム・ヤング大管長は手車隊の開拓者たちが270から370マイル（435から595キロ）離れた場所において、深い雪の中で立ち往生していることを発表しました。ヤング大管長はソルトレーク・シティーの末日聖徒に、彼らを救助するように、そして「現世の事柄と言われている務め……をきちんと果た〔す〕ように呼びかけました。』<sup>4</sup>

ルーシー・メザーブ・スミスは、タバナクルにいた女性たちが暖かいアンダースカートやストッキングをその場で脱ぎ、それらを幌馬車ほろに積み込み、凍えている開拓者たちに送ったと記録しています。その後、姉妹たちは、ほとんど何も持たずにやって来るであろう人々のために寝具や衣類を集めました。手車隊が到着したとき、町にあった一つの建物は「彼らに対する支給品でいっぱい」になっていました。<sup>5</sup>

# 4月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ[る。]……

わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

## 総大会からより多くを学ぶ

教科課程部

マイケル・バーバー, デビッド・マーシュ

**総**大会の最後の部会が終わるときに、わたしたちは「アーメン」と言いますが、その場で霊的な養いを得るのをやめてはいけません。総大会から学んだ教えについて研究し応用することで、引き続き養いを受けることができます。それこそまさに預言者たちが過去何年にもわたって勧めてきたことでした。例えば、1946年に、ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)は大会説教を「これからの6か月間、日々の暮らしや会話の指針」とするよう会員に呼びかけ、次のように語っています。「それらはすべて、主が現代の人々に明らかにするのがふさわしいと考えておられる大切な事柄です。」<sup>1</sup>

1988年、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)もその勧告を繰り返し、次のように教えています。「これからの6か月間、

『リアホナ』の今回の大会の特集号は標準聖典とともに頻繁に参照していただきたいと思います。」<sup>2</sup>

2008年10月の総大会を閉会するに当たり、トーマス・S・モンソン大管長は大会説教を研究することの重要性について改めて強調し、次のように語っています。「この総大会で聞いたことを、いつまでも覚えておくことができますように。わたしたちが聞いたメッセージは来月号の『エンサイン』(Ensign) および『リアホナ』に掲載されます。メッセージを研究し、その教えについて深く考えるよう、強く勧めます。」<sup>3</sup>

大会のメッセージを研究し深く考えながら、それらの教えを生活の中でもっと意味あるものにするために何ができるか考えてください。靈感によって与えられる言葉を聞く備えをし、聞いた言葉を受け入れ、その言葉に基づいて行動するうえで助けとなる提案を幾つか紹介しましょう。





### 書き留めて、 それについて 思い巡らす

「ここでわた  
たちが聞いたす  
べての説教の中  
から、一言でも

ふたこと  
二言でも心に  
残る言葉がある  
はずです。その  
ような言葉を書  
き留め、その意  
味の深さを味わ  
い、その教えが  
自分の身に付く  
までよく思い巡  
らしてください。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長  
(1910 - 2008 年)  
「へりくだり悔いる心」  
『リアホナ』2001 年 1 月, 102

**靈感を受けるために備える。**大会説教を視聴するとき、耳を傾けるとき、読むとき、いずれにしても、神からの靈感に心と思いを開かなければなりません。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、伝え手がたとえどれほど効果的に教えたとしても、「生徒の側で心に取り込もうとしなければ、教えの内容も、聖霊による証も彼らの心にしみ込[ま]ない」と教えています。ベドナー長老は、靈感を受けるには、「外からの影響を受けるだけでなく、霊的、精神的、肉体的な努力が必要です」と説明しました。<sup>4</sup>

以下のアイデアは聖霊から教えを受ける備えをするうえで助けとなるでしょう。

1. 時間を取り、気を散らさずに霊的な促しを受けられる環境を整える。
2. 祈りを通して神の導きを求める。
3. 答えを求めている個人的な疑問、あるいは問題のリストを作る。

**メッセージを理解する。**生ける預言者と使徒は、教え、説き明かし、勧め、警告し、証します。彼らの説教をよく吟味するなら、伝えようとしているメッセージについてさらに完全に理解することができます。効果的な研究方法を幾つか紹介します。

- **質問をする。**例えば次のように自問します。主はわたしにこのメッセージから何を学ぼう望んでおられるだろうか。この説教を通して福音の原則や聖文について、どのように理解が深まるだろうか。福音の原則を明らかにするためにどのような話が用いられているだろうか。またそこからわたしは何を学べるだろうか。
- **概要を書き出す。**話し手が伝えようとしている事柄に注目します。説教を幾つかの部分に分け、各部分で述べられている主要な概念を要約し書き出してください。
- **説教に含まれる様々な要素を明らかにする。**教義、聖文、物語、警告、リスト、証、行動への呼びかけ、勧告に

従う人に約束されている祝福などに注目してください。

- **説教を2回以上研究する。**福音の真理について、その意味と重要性を完全に把握するには、2回以上研究する必要があります。研究する度に、自分が新たに理解したことをノートに記録してください。

**学んだことに基づいて行動する。**祈りの気持ちで説教を研究するなら、伝えられているメッセージを自分の生活に応用する

方法が分かるでしょう。次のように自問することで、意義深い変化を作り出す方法が分かります。主は学んだことを通じて何をしよう望んでおられるだろうか。家族、職場、あるいは教会の召しを果たすうえで助けになることを何か学んだらどうか。心に思い浮かんだ事柄を忘れないように書き留めてください。そのようにするとき、教えに従って生活するよう鼓舞され、約束された祝福を受けるでしょう。

総大会は主が御自身の僕たちを通してその御心を皆さんに明らかにされる機会です。スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985 年)は、大会説教について次のように教えています。「標準聖典ほど、あなたの個人的な書棚で重要な位置を占めるべき書籍はありません。それは文章のきらびやかさや表現方法の巧みさのためではありません。永遠の命へと通じる道を指し示す教えがそこに含まれているからなのです。」<sup>5</sup> ■

#### 注

1. ハロルド・B・リー, Conference Report, 1946 年 4 月, 89
2. エズラ・タフト・ベンソン「『キリストの御許に来てキリストによって全くなれ』『聖徒の道』1988 年 6 月号, 89
3. トーマス・S・モンソン「また会う日まで」『リアホナ』2008 年 11 月号, 106
4. デビッド・A・ベドナー「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007 年 9 月号, 17, 20
5. スペンサー・W・キンボール, *In the World but Not of It*, Brigham Young University Speeches of the Year (1968 年 5 月 14 日), 3



総大会説教を  
読んだり、見たり、  
聴いたりするには、  
conference.  
lds.org に  
アクセスして  
ください。



# アメージング・ グレース

クリステン・ニコル・カードン

日々イエス・キリストの恵みに頼る



## 主の強さの内であれば

「主イエス・キリストを信じる信仰と福音に対する従順さを持ち、強さを求め、自分の態度を改め、望みを増しながら一歩ずつ前進するならば、やがてわたしたちは良き羊飼いの群れの中に自分を見いだすことでしょう。それには自制と訓練、努力と勇気が必要です。しかし、使徒パウロが言うように、わたしたちは『わたしを強くして下さいによって、何事でもすることができ』(ピリピ4:13)のです。」

Howard W. Hunter 大管長  
(1907-1995年)  
「霊性を培う」  
『聖徒の道』1979年10月号, 36

**ブ**リガムヤング大学で宗教学を教えている担当教授が言いました。「教会の集会で、わたしたちは恵みについて話すことがありません。しかし、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは恵みを受けていることを心から信じています。」  
実のところ、若い女性や日曜学校で恵みについてレッスンを受けた記憶はまったくありませんが、高校の聖歌隊で「アメージング・グレース」を歌ったことをふと思い出しました。

驚くほどの恵み！(何と美しい響きだろうか！)  
わたしのような愚かな者さえも救ってください！  
かつては道に迷っていたが、今は神に見いだされ  
かつては盲目だったが、今は見える。<sup>1</sup>

「恵みはイエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>からもたらされる神の力です。」教授はそう説明しました。「わたしは恵みを復活、贖い<sup>いや</sup>、癒し、そして強化という4つの力に分類します。」

教授はそれぞれの力について説明し始めましたが、わたしの心は再び思い出へと戻っていきました。

わたしの高校の聖歌隊は音楽コンテストに出場するため、アメリカ合衆国のカリフォルニア州へと旅したことがあります。わたしは出発寸前になって体調を壊し、のどが痛くなりました。それはコンテストで聖歌隊の仲間と一緒に歌えない、あるいは苦痛のせいでうまく歌えないということを意味していました。わたしは父に神権の祝福をお願いし、翌日は丸一日回復を求めて祈り続けました。

コンテストでは、すっかり回復したので「アメージング・グレース」を歌いましたが、そのときには、まさしく前日に自分を癒してくれた力について歌っていることを恐らく十分には理解していませんでした。救い主の贖いはその日わたしに祝福をもたらしてくれました。主の恵みはわたしを癒してくれた力の源だったのです。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉<sup>みことば</sup>が成就するためである。」(アルマ7:11)



高校卒業後、多くの新生がそうであるように、わたしは大学のカリキュラムや自宅を離れると同時に5人のルームメイトと一緒の生活が始まったことによるストレスに押しつぶされそうになっていました。

そのような日々は、何かを成し遂げられるよう人を強める力をもたらすキリストの恵みについて理解を深める時期となりました。毎日、仕事と勉強に明け暮れましたが、日々の祈りを心のよりどころにしていました。祈りの中で必要な課題を全部こなすことができる力を天の御父に請い求めました。学年が進むとともに、キリストの贖いが持つ人を強化し何かを可能にする力によって、うれしいことに、物事を何とかうまくこなすだけでなく、それを負担に思わずにできるようになったことに気づいたのです。

「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができるようになる。」  
(ピリピ4:13)

わたしはいずれ復活と贖いの完結という主の恵みが持つほかの二つの側面についても経験しなければなりません。今はまだ一日一日をイエス・キリストの贖いに頼って過ごしています。恵み、すなわちイエス・キリストの贖いによってもたらされる力は、これまでわたしを癒し強めてくれました。神の戒めに従い、その御心<sup>みこころ</sup>にどこまでも忠実であろうと努力するとき、わたしは自分の能力をはるかに超えた天からの助けを受けます。

「わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2 コリントス12:13) ■

注

1. ジョン・ニュートン「アメージング・グレース」『オルニー賛美歌集』(1779年)、41番

### 主の恵みはわたしたちの生活にどのような影響を与えるでしょうか

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、この質問に答えるための一助として、今月号の12ページにある「贖罪と現世の旅」で次のように語っています。

- 主は、贖いと聖霊の力を通して、わたしたちの内に生き、わたしたちを導くだけでなく、わたしたちに力を与えたいと望んでおられます。
- 個人の意志力、個人としての決意や意欲、効果的な計画や目標設定は必要ですが、この現世の旅で最終的な勝利を得るには、結局のところ、不十分です。実際、わたしたちは『聖なるメシヤの功德と憐れみと恵み』(2 コリントス12:8)に頼らなければならないのです。
- 人を支える贖いの力は、わたしたちが自らの個人的な望みや生まれながらの能力を超えて行動し、徳を身に付け、奉仕することができるよう力づけてくれます。」

悔い改めた結果として受けた祝福についての証をだれかに伝えることを考えてみてください。



十二使徒定員会  
デビッド・A・  
ベドナー長老

デビッド・O・マッケイ大管長（1873 – 1970 年）は、救い主の福音の主要な目的を次のように簡潔に要約しています。

「福音の目的は、……悪人を善人に、善人をより善い人にするのであり、人間性を変えることです。」<sup>1</sup>つまり、現世の旅とは、悪人から善人へ、そしてより善い人へと成長すること、心に大きな変化を経験することであり、自分の堕落した性質を変えることなのです（モーサヤ 5：2 参照）。

# しよくざい 贖罪と現世の旅

贖罪が持つ  
人に能力を授ける力は、  
善を行い、善人になり、  
自分自身の望みや  
本来の能力を超えた  
働きができるように  
わたしたちを強めてくれます。

わたしたちが悪人から善人に、そしてより善い人になる旅路を進み、心を変えようと努めるときに、ガイドブックとなってくれるのがモルモン書です。ベニヤミン王は、現世の旅について、またその旅を完遂するうえで贖罪が果たす役割について、次のように教えています。「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの堕落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒とな〔ら〕ないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」（モーサヤ 3：19、強調付加）

二つの言葉に注目してください。まず、「生まれながらの人を捨て〔る〕」です。悪人から善人になる旅とは、わたしたち一人一人の内にある生まれながらの人を捨てる過程です。現世では、だれもが肉による誘惑を受けます。わたしたちの肉体を形作っている元素自体が元来堕落した状態にあり、罪と腐敗と死の影響力を絶えず受けています。それでも、わたしたちは「キリストの贖罪により」肉の欲望や誘惑に打ち勝つ能力を高めることができます。間違いを犯すとき、戒めに背き、罪を犯すとき、イエス・キリストの贖罪が持つ贖いの力によって、悔い改めて清くなることのできるのです。

もう一つの言葉は「聖徒とな〔る〕」です。この



言葉は人生の旅の続きである第2の段階について述べています。つまり「善人からより善い人に」なること、言い換えれば、より聖徒にふさわしい者になるということです。この旅の第2部、すなわち善人からより善い人になる過程については、わたしたちはあまり頻りに学んだり教えたりしていませんし、十分に理解していません。

贖罪が持つ贖いと清めの力の本質については、人に強さと能力を授ける力よりもはるかによく知っているという教会員が多いのではないのでしょうか。確かに、イエス・キリストは地上に来てわたしたちのために死んでくださいました。そのことを知るのには大切ですし、それはキリストの教義の根本にかかわる基礎的な部分です。しかし同時に、主は贖罪を通し、そして聖霊の力により、わたしたちの内に生きて、わたしたちに導きだけでなく力を与えたいと望んでおられることも理解する必要があります。

間違いを犯したとき、生活の中で罪の影響に打ち勝つには助けが必要であるということは、ほとんどの教会員が知っています。救い主は代価を払い、主の贖いの力によってわたしたちが清くなれるようにしてくださいました。大半の人は、贖罪が罪人のためにあることを明確に理解しています。しかし、わたしたちは贖罪が聖徒のためにもあること、すなわち、従順で良心的でふさわしい人、また、より善い人になり、より忠実に仕えようと努力している善良な男女のためにもあることを理解しているのでしょうか。善人からより善い人になり、聖徒となる旅を、わたしたちは自分の力だけで歩まなければならないと思いをしているかもしれません。根性や意志の力、自制心だけによって、明らかに限界のある自分の能力に頼って進もうとしないのでしょうか。

救い主の福音は、単に生活の中で悪を遠ざけることではなく、本質的に、善を行い、善人になることでもあります。そして贖罪は、わたしたちが悪に打ち勝ち、悪を避けると同時に、善を行い、善人になる助けを与えてくれます。救い主の助けは、悪人から善人に、そしてより善い人になる旅、自分の性質そのものを変えるこの現世の旅の間、絶えず受

けることができるのです。

贖罪が持つ贖いの力と人に能力を授ける力が関連のない別個のものだと言っているではありません。むしろ、贖罪のこれら二つの側面は結びついており、補い合っています。人生の旅のあらゆる段階において両方の力が働いている必要があります。そして現世の旅に不可欠な二つの要素である、生まれながらの人を捨てることと聖徒となることの両方が贖罪の力によって成し遂げられるということを確認することが、わたしたち全員にとって常に重要です。悪に打ち勝つことと善人になることの両方が、贖罪の力によって成し遂げられるのです。個人の意志の力、決意や意欲、効果的な計画や目標設定は必要ですが、この現世の旅を成功のうちに終えるには最終的には十分ではありません。実に、わたしたちは「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵み」に頼るようにならなければならないのです(2ニーファイ2:8)。

### 恵みと、贖罪が持つ人に能力を授ける力

『聖書辞典』(Bible Dictionary)によると、聖典では恵みという言葉がよく「人に能力を授ける力」という意味で用いられていることが分かります。

「〔恵み〕という言葉は新約聖書に、特にパウロの書簡に頻繁に出てくる。この言葉はおもに、人に助けと力を授ける天の手段や方法を意味し、それらはイエス・キリストのあふれる憐れみと愛を通して与えられる。

主イエスの恵みを通して、主の贖いの犠牲により人類は不死不滅によみがえることが可能になっており、すべての人が永遠に生きる状態で墓から肉体を受ける。同様に、主の恵みを通して、人はイエス・キリストの贖罪を信じる信仰をもって自らの罪を悔い改めることにより、自分の力だけでは続けることのできない善い行いをする力と助けを受ける。この恵みは人に能力を授ける力であり、これによって男性も女性も、最善を尽くした後永遠の命と昇栄を得ることができる。」<sup>2</sup>

恵みは、わたしたち一人一人が日の栄えの王国にふさわしい者となるためにぜひとも必要な神の支援であり、天からの助けです。このように、贖罪



が持つ人に能力を授ける力は、善を行い、善人になり、自分自身の望みや本来の能力を超えた働きができるようにわたしたちを強めてくれるのです。

わたしは個人の聖文研究の際に、恵みという言葉を見つけたら「人に能力を授ける力」と書き込むようにしています。例えば、わたしたちが皆よく知っている次の聖句について考えてみ



ニーファイは  
状況を変えてください  
とは祈りませんでした。  
それよりも、  
状況を変える力を  
祈り求めました。

てください。「わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っている。」(2 ニーファイ 25 : 23) 聖文に恵みという言葉を見つける度に「人に能力と強さを授ける力」と書き込むなら、贖罪のこの重要な側面について多くのことが学べると信じています。

#### 実例とそれが伝えていること

現世の旅は、悪人から善人に、そしてより善い人になる旅であり、自分の性質そのものを変える旅です。モルモン書には、弟子や預言者がそれぞれの旅で贖罪が持つ人に能力を

授ける力について知り、理解し、その力によって変化を遂げた例がたくさん載っています。わたしたちはこの神聖な力について理解を深めるにつれて、福音に即した視野が大いに広がり、深まります。そのような視野を得るとき、わたしたちは驚くような変化を遂げることになります。

ニーファイは、救い主が持つておられる人に能力を授ける力について知り、理解し、その力に頼った人物の一人です。リーハイの息子たちがエルサレムに戻り、イシマエルとその家族を約束の地に向かう旅の一行に招いたときのことを思い出してください。エルサレムから再び荒れ野に戻る旅の途中で、一緒に旅をしていたレーマンたちが背き、ニーファイは主を信じる信仰を持つように兄たちに勧めました。そして旅のこの時点で、兄たちはニーファイを縄で縛り、殺そうとします。ニーファイの祈りに注目してください。「おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、兄たちの手から救い出してください。まことに、わたしを縛っているこの縄を断ち切る力をお与えください。」(1 ニーファイ 7 : 17, 強調付加)

もしわたしが自分の兄弟たちに縛られていたとしたら、たぶん何を祈り求めていたかわかりますか。「この窮地から今すぐ救い出してください!」と祈っていたことでしょうか。特に興味深く思うのは、ニーファイが状況を変えてくださいとは祈らなかった点です。それよりも、状況を変える力を祈り求めたのです。ニーファイがこのように祈ったのは、贖罪が持つ人に能力を授ける力について知り、理解し、身に受けていたからにはほかならないと、わたしは信じています。

ニーファイを縛っていた縄が魔法のように手首から落ちたわけではないと思います。

そうではなく、ニーファイは祝福されて本来の能力を超えた粘り強さと身体的な強さの両方を授かり、「主の力を受けて」(モーサヤ9:17)、縄をねじったり、引っ張ったりしながら苦労した末に、文字どおり縄を断ち切ることができたのではないのでしょうか。

この出来事がわたしたち一人一人に伝えていることは明快です。皆さんもわたしも、贖罪が持つ人に能力を授ける力について理解し、その力を自分の生活で用いるようになるとき、状況が変わるように祈るのではなく、状況を変える力を祈り求めるようになるでしょう。受け身でいるのではなく、自ら選択し行動する者になるでしょう(2ニーファイ2:14参照)。

モルモン書に記されている、アルマとその民がアミュロンから迫害を受けたときの例について考えてみましょう。苦難の中にあるこの善人たちに主の声が聞こえて、次のようにおっしゃいました。

「『またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、……あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。』……

そこで、アルマと彼の同胞ほらからに負わされた重荷は軽くなった。まこと

に、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心みこころ楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。」(モーサヤ24:14-15、強調付加)

この出来事の中で、変わったのは何だったのでしょうか。彼らが負っていた重荷は変わりませんでした。迫害に伴う問題や困難は、すぐには民から取り除かれませんでした。しかし、アルマと彼に従う人々は強められ、能力と強さが増したことで、負っていた重荷が軽くなったのです。この善人たちは贖罪によって力を授かり、自ら選択し行動する者として行動し、状況に影響を及ぼしました。その後、

アルマとその民は「主の力を受けて」安全なゼラヘムラの地に導かれました。

「アルマとその民の話がどのような点で贖罪が持つ人に能力を授ける力の実例なのだろう」と思ったとしても不思議ではありません。その答えはモーサヤ書第3章19節と第24章15節を比べてみると見つかります。

「主なるキリストの贖罪により、生まれなが



らの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜けんそんで、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従[う。]」(モーサヤ3:19、強調付加)

現世の旅において悪人から善人へ、そしてより善い人へと成長するにつれて、それぞれの内にある生まれながらの人を捨てるにつれて、そして、聖徒となって自分の性質そのものを変えようと努めるにつれて、皆さんもわたしも次第にこの節で挙げられている特質を持った人物になっているはずなのです。わたしたち

苦難の中にあるこれらの善人たちに主の声が聞こえて、次のようにおっしゃいました。「またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、……あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。」

はよりいっそう子供のように柔和で、忍耐強く、喜んで従う者となるのです。

では、モーサヤ書第3章19節に記されたこれらの特質を、アルマとその民について述べる際に挙げられた特質と比べてください。「そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。」(モーサヤ24:15, 強調付加)

これらの節で述べられた特質の類似は注目に値するものであり、主なるキリストの贖罪が持つ人に能力を授ける力によって、アルマの善い民がより善い民になりつつあったことを示していることが分かります。

アルマ書第14章に記されているアルマとアミュレクの話の思い出してください。この出来事において、多くの忠実な聖徒が焼き殺され、この二人の主の僕は投獄され、打たれていました。アルマが牢の中で祈ったときに述べた次の嘆願の言葉について考えてください。「おお、主よ、キリストを信じるわたしたちの信仰に応じて、自由になる力をわたしたちにお与えください。」(アルマ14:26, 強調付加)

ここでもまた、贖罪が持つ人に能力を授ける力をアルマが理解し、信頼していたことが、アルマの嘆願から見て取れます。そしてこの祈りの結果に注目してください。

「そして二人〔アルマとアミュレク〕は、自分たちを縛っていた縄を断ち切った。人々はそれを見ると、滅ぼされるのではないかとという恐怖に襲われ、逃げ始めた。……」

そして、アルマとアミュレクは牢を出た。二人はキリストを信じる彼らの信仰に応じて主から力を授けられていたので、傷も負っていなかった。」(アルマ14:26, 28, 強調付加)

ここでも再び、善人たちが「主の力を受けて」悪と戦い、より善い人になり、より効果的に仕えようと努めるときに、人に能力を授ける力がはっきりと表れています。

モルモン書には、もう一つ有益な例が載っています。アルマ書第31章で、アルマは神の教えに背いているゾーラム人を改心させるために、伝道の業を導いています。ゾーラム人はラミアンプトムを設

けて、決まり文句の尊大な祈りをささげていました。

アルマが個人の祈りの中で力を求めて嘆願している箇所に注目してください。「おお、主よ、この民の罪悪のためにこれから先わたしに降りかかるこれらの苦難を、忍耐をもって乗り切ることができるように、どうか力を得させてください。」(アルマ31:31, 強調付加)

アルマはまた、同僚の宣教師も同様の祝福を得られるように祈っています。「民の罪悪のために彼らに降りかかる苦難に耐えることができるように、どうか彼らに力を得させてください。」(アルマ31:33, 強調付加)

アルマは自分の苦難が取り除かれるようにとは祈りませんでした。自分が主の代理人であることを知っていたので、行動する力、状況に影響を及ぼす力を祈り求めたのです。

この例で最も重要な点が、アルマ書第31章の最後の節に記されています。「主は、彼らに力を与え、キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けることがないようにされた。これはアルマの祈りによるものであった。彼が信仰をもって祈ったので、このようになったのである。」(38節, 強調付加)

苦難は取り除かれませんでした。しかしアルマと彼の同僚たちは、贖罪が持つ人に能力を授ける力によって強められ、「キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けることがないように」祝福されました。何と驚くべき祝福でしょう。そしてわたしたち一人一人が学ぶべき何という教訓でしょう。

人に能力を授ける力の例は、聖典にしか見いだせないわけではありません。ダニエル・W・ジョーンズは1830年にミズーリ州で生まれ、1851年にカリフォルニア州で教会に加わりました。1856年、ダニエルは激しい吹雪のためにワイオミング州で立ち往生していた手車隊の救助に参加しました。救助隊は苦しむ聖徒たちを見つけ、その場ですぐに提供できる慰めを与え、病人や弱っている人をソルトレーク・シティーに運ぶ手はずを整えました。その後、ダニエルと数人の若者は手車隊の持ち物を守るために、そこに残ることを志願しま

した。ダニエルたちに残された食料や物資はわずか、すぐに尽きてしまいました。ダニエルの日記から、その後の出来事が述べられている箇所を引用します。

「すぐに動物がほとんどいなくなり、何も仕留めることができなくなった。わずかな肉をすべて食べたが、食べている最中に空腹になる。とうとうすべて食べ尽くし、残るは皮だけとなった。そこで皮を試してみた。たくさんの皮を何の味付けもせず煮て食べたが、隊の全員が吐き気に襲われた。……

絶望的な状況に思われた。餓死した家畜の粗末な生皮のほか何も残っていなかったのだ。わたしたちはどうすべきか主に導きを求めた。兄弟たちは不平を言うことなく、神に頼るべきだと感じていた。……ついにわたしはどのように皮を調理すべきかについて導きを受け、隊の人たちに助言し、調理方法を伝えた。まずあぶって毛をこすり落とす。こうすることで、熱湯処理により嫌な味が生じるのを防げる。こすった後、たっぷりの湯で1時間煮て、粘りけがすべて溶け出したところで湯を捨てる。次に、皮を洗い、冷水で洗いながらしっかりとこす。その後、ゼリー状になるまで煮て、冷まし、砂糖を少し振って食べる。かなり手間のかかる方法だったが、ほかにほとんどなす術がなく、餓死するよりはよかった。

わたしたちは主が自分たちの胃を祝福し、この食物を消化できるようにして下さるようお願い求めた。……今や皆がこのごちそうを楽しんでいるようだった。この2度目の試みがなされるまで、わたしたちは3日間何も食べていなかった。約6週間にわたってこのぜいたくな食事を楽しんだ。」<sup>3</sup>

このような状況で、わたしなら恐らく何か別の食べ物を祈り求めたでしょう。「天のお父様、どうかウズラかバッファローをお送りください」と。自分の胃が強められ、手もとにある食べ物を消化できるようにと祈ることはたぶんなかったでしょう。ダニエル・W・ジョーンズは何を知っていたのでしょうか。イエス・キリストの贖罪が持つ人に能力を授ける力です。ダニエルは状況が変わるようには祈りませんでした。状況に対処するために

強められるよう祈ったのです。アルマとその民、アミュレク、そしてニーファイが強められたように、ダニエル・W・ジョーンズは、そのとき何を祈り求めるべきかを知るだけの霊的な洞察力を持っていたのです。

キリストの贖罪が持つ人に能力を授ける力は、自分の力だけでは決してなし得ないことを行えるようにわたしたちを強めてくれます。現代の人々は電子レンジや携帯電話、エアコン付きの自動車、快適な家のある安楽な生活をしています。そのような末日の世にあって、わたしたちは贖罪が持つ人に能力を授ける力に自分が日々依存していることを認めるようになることが果たしてあるのだろうかと思うことがあります。

ベドナー姉妹は驚くほど忠実で有能な女性であり、わたしは人を強める力について彼女の隠れた模範から重要な教訓を学んできました。わたしはベドナー姉妹が3度の妊娠期間中ずっと、絶え間ないひどいつわりに耐え抜く姿を見てきました。ほんとうに8か月間、毎日一日中具合が悪いのです。妻に祝福があるようわたしたちは一緒に祈りましたが、その試練が取り除かれることはありませんでした。その代わりに、ベドナー姉妹は自分自身の力ではできないことを行う身体的な力を授かりました。また、末日聖徒の女性が預言者の勧告を心に留めて家族や子育てを最優先するとき、世の中からあざけりやそしりを受けることがあります。妻がそうしたことに対処する強さを授かる様子を、わたしは長年にわたって見てきました。そのようなかけがえのない教訓を学べるように助けてくれたスーザンに感謝し、敬意を表します。

### 救い主は御存じであり、理解しておられる

アルマ書第7章では、救い主がどのようにして、またなぜ人に能力をお授けになれるのかについて学ぶことができます。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している

死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:11-12, 強調付加)  
救い主はわたしたちの罪悪のためだけで

を負われたからです。そして主は究極の代価を払いその重荷を負われたので、わたしたちの人生の実に様々な局面で、わたしたちの気持ち完全に理解し、憐れみの腕を伸べる事がおできになるのです。主は手を差し伸べ、心に触れ、助ける事がおできになり、文字どおりわたしたちに駆け寄って、自分では決して得られないほどの強さを与え、自分自身の力だけに頼ったのでは決してなし得ないことを行えるように助けてくださるのです。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28-30)

わたしは主イエス・キリストがささげてくださった無限にして永遠の犠牲について証し、感謝を表します。わたしは救い主が生きておられることを知っています。これまでに主の贖いの力と人に能力を

授ける力の両方を身に受けてきました。これらの力が実在し、わたしたち一人一人が受けられるものであることを証します。現世の旅を歩みながら、わたしたちは確かに「主の力を受けて」すべてのことを成し遂げ、すべてのことに打ち勝てるのです。■

2001年10月23日、ブリガム・ヤング大学のディボーショナルでの説教から。全文[英語]を読むには、[speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu) にアクセスしてください。

#### 注

1. フランクリン・D・リチャーズ, Conference Report, 1965年10月, 136-137。デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1954年4月, 26も参照
2. Bible Dictionary, "Grace," 強調付加
3. ダニエル・W・ジョーンズ, *Forty Years among the Indians* (日付なし), 57-58



皆さんやわたしが現世の旅で経験する肉体的な痛み、心痛、精神的な苦しみ、病や弱さのうち、先に救い主が経験なさらなかったものは一つもありません。

なく、実に頻繁にわたしたちを悩ます不平等や不公平、苦痛、苦悶、情緒的な苦悩のためにも苦しまれました。皆さんやわたしが現世の旅で経験する肉体的な痛み、心痛、精神的な苦しみ、病や弱さのうち、先に救い主が経験なさらなかったものは一つもありません。皆さんもわたしも、自分の弱さに悩むとき、「だれも理解してくれない。だれにも分からない」と声を上げることがあるかもしれません。分かる人間は恐らくいないでしょう。しかし、神の御子はすべてを御存じであり、完全に理解しておられます。わたしたちが経験するより先に、わたしたちの苦しみを味わい、重荷

世界各地に住む仲間たちが、  
セミナーを通して  
イエス・キリストに近づいています。



MÉXICO

# セミナー の祝福

教会機関誌  
ブリタニー・ビーティー

**セ**ミナリーに出席するという選択をしているのはあなただけではありません。世界各地に住む何十万人もの青少年がセミナーを生活の一部にしており、バスやタクシー、自転車で教室に通ったり、さらにはインターネットでレッスンを受けています。中には、時間に間に合うよう早起きをして長い道のりを通う生徒や、夕方遠方まで通う生徒、週の何日かは家庭で学習する人もいます。

セミナーに出席するには犠牲が求められますが、世界各地の青少年は、どんな努力をしてでも、セミナーには参加する価値があると感じています。参加者にはある共通点があります。セミナーに参加することにより、救い主と天の御父に近づく点です。

## 約束されている祝福を受ける

なぜセミナーはあなたにとって、そんなに大切なのでしょうか。その理由の中には、末日の預言者と使徒から与えられた次の約束があります。

- セミナリーは「極めて困難な時代に生きる現代のイスラエルの救いのために神から与えられた祝福となります。」<sup>1</sup>
- セミナリーによって「皆さんが会う人々に、回復された福音のメッセージを伝える備えができるでしょう。」<sup>2</sup>
- セミナリーは「真理に対する大切な理解を

得」るうえで役立ちます。<sup>3</sup>

- セミナリーは「皆さんが幸せになるための教えを学ぶ所です。また、皆さんと同じ信仰を持つ仲間と交わるすばらしい機会です。」<sup>4</sup>
- 「皆さんの福音の知識が増し加えられ、信仰が強められていくと約束いたします。そしてともに学ぶ仲間とすばらしい友情を築くことができるでしょう。」<sup>5</sup>
- 「この事業は……霊的な糧を与え、周囲の悪に打ち勝つ道徳的な力を与え、福音の知識を大きく増し加え……ています。」<sup>6</sup>
- セミナリーは「伝道に備える最良の方法」です。<sup>7</sup>

## 出席する方法を見いだす

セミナーに出席する時間を作るために、他の楽しみをあきらめなければならないことがよくあります。しかし、その犠牲を払うだけの価値があります。フィリピンのエライジャ・プガヨングは高校の最終学年にその選択をすることに決めました。高校時代、エライジャの成績は常にクラスで2番目でした。最後の学年では1番になろうと決意し、目標を達成するためにそれまで参加していたセミナーに行かないことまで考えました。

ある日、考えが変わりました。「机を見ると、そばに置いてある山積みの本が目に入りました。それは、聖典とセミナーのノートと手引きでした。わたしは心の奥底で思いました。『どっちがいちばん大事なの。』」

フォトイラストレーション/©Tommy/©厚意により提供。絵/スコット・クリアー



## 生涯にわたり影響を及ぼす祝福

「何年も前のことですが、わたしは早朝セミナーを教える特権に恵まれたことがあります。クラスは、学校がある日には、毎朝午前6時半から7時半まで開かれていました。2年の間、わたしは寝ぼけ眼の生徒たちが、教師に『さあ、わたしの目を覚ましてよ』と言わんばかりの様子で、よるめきながらクラスに入ってくる光景を目にしていました。しかし、祈りがささげられ、霊的な考え方に触れると、頭脳が明晰になり、聖文の知識を増加していく様子も目にしてきました。クラス運営でいちばん大変だったのは、高校の正規の授業に送り出すために、話し合いを予定どおりの時間に終わらせることでした。学年が進むにつれ、一人一人の生徒がいっそう自信をつけ、友情を深め、福音の証を強めていく様子も目にすることができました。

数年前のことですが、わたしはここからそう遠くない町で、ある小さなスーパーマーケットに立ち寄ったところ、わたしの名前を呼ぶ声が聞こえました。わたしは振り返って、かつてのわたしのセミナーの生徒を二人見つけ、あいさつしました。二人は今夫婦となっていました。また、かわいらしい4人の子供たちを紹介してくれました。話が進むうちに、わたしは、セミナーが終わってから随分たつにもかかわらず、今でもかなりの数のクラスメートたちが交流を保っていることを知り驚きました。それは、あのほんとうに朝早くから行われた早朝セミナーのクラスで生まれた、特別なきずなの結果でした。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老  
「真理を受け入れる」  
『聖徒の道』1998年1月号、68 - 69

エライジャはマタイによる福音書第6章33節にその答えを見つけました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」エライジャは忠実にセミナーに出席し別の方法で時間のバランスを取りながら勉強することに決めました。その年の終わりに、エライジャは卒業生総代に指名され、大学の奨学金まで獲得しました。

アメリカ合衆国アラバマ州のスペンサー・ダグラスは友達とのつきあいを幾らかあきらめて、セミナーにできるだけ参加しようと決めました。セミナーの最初の2年間は午前4時に起き、後の2年間は午前5時に起きました。スペンサーは次のように語ります。「早く寝なければならなかったので、友達と夜遅くまで一緒にいることができないことも多くありました。そうしなければ、翌朝しっかりとセミナーに参加して学ぶことはできなかったでしょう。」スペンサーにとって、ただ教室に行くことだけではなく、目がさえ学ぶ準備ができた状態で教室に行くことが重要だったのです。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように教えています。「『良いこと』だからというだけでは、行うのに十分な理由にならないという現実を認識することから始めましょう。わたしたちにできる良いことの数、それらを達成するのに必要な時間数をはるかに超えています。良いこと以上により良いこともあり、わたしたちはそれらのことに、生活の中で優先的に目を向けるべきなのです。」<sup>8</sup>

セミナーを自分のスケジュールの中で優先する方法を決めるうえで、この重要な勧告を記憶にとどめておくべきです。

## 伝道に備える

今、会員伝道をするためにも、また将来専任宣教師として伝道するためにも、セミナーは良い準備となります。ペルーのフランコ・ウアマン・クリヌキにとって、セミナーでの聖文研究は伝道に備えるうえで役立っています。

何か月も続く洪水の季節には、朝4時に起きて、カヌーをこぎ、泥の中を歩いてセミナーに行きます。こんなに大変な思いをしても準備をする価値がある、とフランコは言います。「セミナーを終えさらにインスティテュートに出席して伝道に備えたいと思います。これからも教会で成長していくつもりです」とフランコは続けます。セミナーはフランコにとって大切です。聖文について学び大切な聖句を暗記する場であり、より良い宣教師になるうえで役立つからです。

## 生活のあらゆる面で祝福を受ける

世界中の青少年はセミナーに出席しようと努力することにより、聖典学習以外の事柄についても強められています。イギリスのキャメロン・リスニーは、生活のあらゆる面で祝福を受けていることに気づきました。「セミナーは霊的な面だけでなく、学校や教育の面でも役立ちます」とキャメロンは言います。

「早朝に一日のスタートを切ることで、脳にエンジンがかかるんです。



忙しすぎてセミナーに出席できないという友人もいますが、だからといって朝6時に数学の復習などしないですよね」とキャメロンは話します。勉強すると、「主がテストで助けてくださいます。セミナーに行くと、もっと助けてくださいます。」

もちろん、セミナーはキャメロンが証を強めるうえでも役立ちました。彼は次のように話します。「セミナーのプログラムを通して初めて証を得ました。14歳のとき、わたしは福音について悩んでいました。教会は楽しくありませんでしたし、すべきでないことをしていました。数か月後には教会をやめていたかもしれません。」しかし、友人からセミナーに行こうと誘われ、キャメロンは一緒に行くことにしました。すると、祝福がほんとうに訪れ始めたのです。

「また御霊を感じ始めました」とキャメロンは続けます。「教会に対して興味が出てきて、日曜学校と神権会のレッスンに出席しました。それらのことを行うことがより容易になり、楽しくなってきました。そしてとうとう福音に対する自分自身の証を得たのです。」セミナーに行き始めて2か月後、キャメロンはビショップと面接してアロン神権の教師の職に聖任されました。

キャメロンは、世の誘惑に負けず強く立つうえでセミナーが役立つと感じています。「セミナーを続けていくうちに、この世の困難に対処することが以前よ

りも容易になりました。今青少年が、この罪に取り囲まれている世の中で生活するのはかなり大変です。セミナーに出席するならばそれらの罪から自分を守るための強さを見いだせることを証します。セミナーはあなたを守る霊的な盾を作り出します。様々な試練や誘惑をたくさん受けましたが、セミナーはわたしが細くて狭い道にとどまるための大きな力となっています。」

### 互いに強め合う

セミナーは、同じ信仰を持つ他の10代の若者と集う機会でもあります。ロシアのビカ・チェリシコワはこのように話します。「同じ価値観や道徳的標準を持ち、自分と同じように神を信じている人たちに刺激を受けます。」

そして、こう付け加えます。「疑問があればセミナーの教師や他の生徒たちとその疑問について話し合うことができます。自分の考えや証を人々と分かち合うことにより自分や他の人の信仰を強めることができます。一緒に聖文を読み霊的な内容について深く考えるときに、互いに親しくなり神に近づきます。」

ウクライナのクセニア・ゴンチャロワも同じような結果を目にしてきました。「自分たちの経験を話し合うことで、わたしたちはもっと強くなって、また聖文の理解も深まります。レッスンの中で自分たちの身の回りの経験を分かち合うと、福音がわたしやほかの人の生活をどのように祝福しているのかわかります。」





## ヘンリー・B・アイリング管長の 人生に影響を与えたセミナー

三 ルドレッド・ベニオンは、1912年に初めて開かれたグラナイトセミナーのクラスの生徒の一人です。ベニオン姉妹は後に大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長の母となります。

ベニオン姉妹は自分の人生におけるセミナーの大切さを理解しており、自分がセミナーから受けた祝福を自分の子供たちにも受けてほしいと願い、家族である大きな決断をしました。「息子たちがセミナーとインスティテュートに出席して教会の友人を作ることができるよう、わたしたちはかなりの金銭的な犠牲を払ってユタ州に引っ越しました。セミナーとインスティテュートに対するわたしの気持ちはこれでお分かりいただけるでしょう。」(C・コールマン, *History of Granite Seminary*, 142で引用)

アイリング家族は引き続き教会教育を大切にし、1971年にヘンリー・B・アイリング管長は教会所有のリックスカレッジ(現BYUアイダホ校)の学長となり、1980年から1985年まで、そして再び1992年から2005年まで教会教育委員長を務めました。

## 天の御父とイエス・キリストを知る

最近何人かの青少年たちが、セミナーを通してどのような祝福を受けたかという質問を受けました。彼らの答えから、セミナーは青少年を天の御父と救い主に近づけるという大きなテーマが浮かび上がってきます。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はこのように教えています。「セミナーで学ぶテーマは重要なものばかりです。毎年、いずれかの聖典に焦点を当てながら主イエス・キリストに重点を置いて学びます。」<sup>9</sup>

では、10代の若者たちが話す、セミナーを通してイエス・キリストに近づいた経験を読んでみましょう。

- 「たくさんの預言者の話を読んでい  
るうちに、救い主が自分のために  
何をしてくださっているかを学びま  
した。そして自分が救い主にとって  
どれだけ大切な存在であるかとい  
うことに気がついたのです。主は  
わたしを大変愛してくださり、  
わたしが苦しみを受けることのない  
ように苦痛を受け、亡くなられた  
のです。」
- 「セミナーは一日を始める最良の  
方法です。どんなに疲れていても  
わたしは御霊を感じ、強められ、そ  
の日困難なことが起こっても救い  
主がわたしを愛しておられること  
を疑いなく知っているのです、自  
信をもって正しいことを擁護する  
ことができます。」
- 「わたしは改宗者です。バプテスマ  
を受ける前にセミナーを受け始  
めました。セミナーがなかった

ならバプテスマを受けたかどうか  
分かりません。セミナーがなけれ  
ば、今わたしの生活に救い主は  
おられませんし、自分の罪が赦さ  
れることも知らなかったでしょう。  
天の御父もイエス・キリストもわ  
たしの人生には一切関係のない御  
方だったことでしょうか。セミナー  
は、御二方を見いだし、御二方を  
永遠に自分や自分の将来の子供た  
ちの人生の一部とするうえで、助  
けとなりました。」

- 「毎日セミナーに通い、主の教え  
や、主がわたしに対して抱いてお  
られる偉大な愛、主のもとに戻り  
ともに住む方法を学ぶことにより、  
わたしの主であり救い主であられる  
イエス・キリストに近づくことが  
できました。」
- 「セミナーに出席すると、聖文の  
より深い意味が分かります。セミ  
ナリーは、日々の活動の中でキリス  
トのように振る舞うことを毎朝思  
い出させてくれます。」
- 「セミナーは、聖文の読み方を教  
えてくれました。聖文を楽しく読  
むだけでなく、読んだことを生活  
に当てはめるよう教えてくれました。  
愛に満ちた天の御父とイエス・キ  
リストに対する証を強めるうえで  
役立つ教義と原則を教えてくれま  
した。これからもこの証を大切に  
していきます。」

セミナーに出席することによりこ  
んなにも多くの祝福が得られるの  
ですから、世界中の青少年がセミ  
ナリーを優先する訳が分かります。■

注

1. ボイド・K・バッカー *Teach the Scriptures* (教会教育システム教育者に向けた説教, 1977年10月14日), 3
2. L・トム・ベリー「バーを上げる」『リアホナ』2007年11月号, 48
3. リチャード・G・スコット「無限の可能性を認識する」『リアホナ』2003年11月号, 42
4. ゴードン・B・ヒンクレー「誠意を尽くし, 忠誠を守る」『聖徒の道』1996年7月号, 109
5. ゴードン・B・ヒンクレー「信仰がもたらす奇跡」『聖徒の道』1984年7月号, 88
6. ゴードン・B・ヒンクレー「教会の現状」『聖徒の道』1991年7月号, 56
7. エズラ・タフト・ベンソン「福音を分かち合う責任」『聖徒の道』1985年7月号, 7
8. ダリン・H・オークス「良いこと, より良いこと, 最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号, 104
9. デビッド・A・ベドナー "Conclusion and Testimony," *Welcome to Seminary 2010-2011*, seminary.lds.org/welcome

## セミナリーの歴史

以下は, 長年にわたるセミナリーの発展を示したものです。

- 1888年: ウィルフォード・ウッドラフ大管長が教会教育管理会の設立を監督する。教会教育管理会は, 放課後の宗教クラスを含む教会教育に関する取り組みを管理する機関である。
- 1912年: 平日のデイリー・リリースト・タイム・セミナリークラスが開設され, 合計70人の生徒が1時限高校を抜けてセミナリーに出席した。セミナリーのクラスは, アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティのグラナイト高校の向かいで開かれた。
- 1925年: 登録学生数が1万人に達する。
- 1948年: アメリカ合衆国外初のセミナリーがカナダで開始する。
- 1950年: カリフォルニア州でデイリーセミナリー (以前は「早朝セミナリー」と呼ばれていた) が開設され, 生徒たちは学校が始まる前に教会の集会所に集った。
- 1958年: 登録学生数が5万人に達する。
- 1958年: 中米でセミナリーが開始する。最初にメキシコに導入された。
- 1962年: ヨーロッパでセミナリーが開始する。最初にフィンランドとドイツに導入された。
- 1963年: アジアでセミナリーが開始する。最初に日本に導入された。
- 1965年: 登録学生数が10万人に達する。
- 1967年: 地方で家庭学習セミナリーが開始する。生徒は毎週4日間は家庭で学び, 1日は教会に集まる。
- 1968年: オーストラリアでセミナリーが開始する。
- 1969年: 南米でセミナリーが開始する。最初にブラジルに導入された。
- 1972年: アフリカでセミナリーが開始する。最初に南アフリカに導入された。
- 1983年: 登録学生数が20万人に達する。
- 1991年: 登録学生数が30万人に達する。
- 2012年: 世界134の国および領土で開催中。約37万人の学生が登録している。



# 改宗者への召し

ヘレナ・ハノネン



**わ** たしは10歳のときにフィンランドのラッペーンランタでバプテスマを受け、その後すぐ、最初の教会の召しを受けました。それは1960年のことで、わたしたちの小さな支部では、<sup>せいさん</sup>聖餐会で賛美歌を歌うときの伴奏者がどうしても必要でした。その責任を果たしてほしいと言われたのです。

母はわたしと弟に、芸術的な才能を伸ばすようにいつも励ましてくれていたのですが、わたしはピアノを弾くことができませんでしたし、家にはピアノがありませんでした。でもこの召しを果たしたいと思い、わたしたちは計画を立てました。

家庭の夕べで、わたしたち家族にとってこの召しがどのような意味があるかについて話し合いました。しかし、父は亡くなっていて、母には



わたしは  
改宗したばかりで、  
ピアノなど  
まったく弾くことは  
できませんでした。  
でも人生を変えた  
支部伴奏者という召しに  
心から感謝しています。

わたしたち二人の幼い子供がいます。ですから、ピアノを買い、レッスン費用を出すことはとても大変なことになると分かっていました。でも、わたしたちは喜んで必要な犠牲を払うことに決めました。

家族にとっての最初の犠牲は経済的なことでした。わたしたちは春から秋にはバスには乗らずに自転車を使うことにしました。弟のマルティは勇敢で、自転車に乗ることが特にうまくなり、雪でも凍った道でも乗れるようになりました。わたしは服を買うことをやめ、裁縫を習いました。またわたしたちは賢明に生活する方法を身に付けました。祖父母の家の近くの田舎で畑を始め、冬に備えて食べ物を貯蔵しました。わたしたちの「休暇」は母のスイス神殿参入であり、そうでなければ家の近くでのピクニックやキャンプでした。

家族が払った第2の犠牲は時間です。家事を分担し、ほかの用事や宿題をする時間を調節し直すことで、わたしはピアノの練習時間を十分にとることができました。母がよく言っていたように、わたしたちは様々な犠牲を払い、一生懸命働いていたことで、同年代の人たちのように自由な時間はなく、おかげで問題となるようなことにかかわることもありませんでした。実際、わたしがピアノの音を一つでも出さずと前から、わたしの召しは家族の召しとなっていました。

わたしは地元の学校で先生についてピアノを習い始めました。練習には、紙の鍵盤と教会にあるピアノを使いました。ピアノの先生が引っ越したとき先生からピアノを買い、その地域で有名なピアノ教師の門下生として受け入れてもらいました。

賛美歌は独学で学び、支部の音楽指揮者と随分練習しました。「おかしな」音が混じっても、

皆は励ましてくれました。ピアノ教師は、わたしがまだ十分に弾けず、暗譜もできていない状態で人前で弾いていると知ってあきれていました。でも、片手だけでも、まったく伴奏がないよりはよかったです。

レッスンに行くときは自転車を使い、冬になると歩くか、できるときはスキーで行くようにしました。日曜日は、集会の1時間前に着いて練習ができるように、教会へは一人歩いて行きました。気温が氷点下15℃(華氏5℃)以下になったときだけバスに乗りました。雨や雪は特に気になりませんでした。というのも、たくさんの美しい賛美歌を口ずさみながら歩いたので、時間は早く過ぎたのです。歩きながら開拓者と一緒に平原を渡りました(「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番参照)。シオンの高い山を歩きました(「山の上に」『賛美歌』2番参照)。ひるまず前進する若者とともに立ちました(「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番参照)。ロシア国境近くの、フィンランド東部の町で末日聖徒はわたしたち家族だけでしたが、こうした助けがあったのです。わたしはくじけるわけにはいかなかったのです。

数年たつとピアノも上手になり、ただ正しく音符をたどるだけでなく、音楽を演奏できるようになっていました。御霊が集会にあるように、よく祈って音楽を選ぶことができるようになりました。いちばん重要なことは、音楽を通して福音の証<sup>あかし</sup>を得たことです。何か疑問に思うことがあっても、すぐに賛美歌の持つ情感や歌詞やメッセージを思い出すことができました。わたしは、福音の原則と儀式が真実であることを知りました。教えに教えを、そして音符に音符を与えられて知りました。

福音の原則に対するわたしの決心が試された日のことを思い出します。14歳のわたしは



水泳が好きで、オリンピックで泳ぐことを夢見ていました。日曜日は競技会に出ませんが、上達していきました。とうとうメキシコシティでのオリンピックが近づき、コーチはわたしに特別トレーニングに参加するよう声をかけてくれたのです。

しかし、そのトレーニングは毎週日曜日の日曜学校の時間に行われることになっていました。そこでわたしは何か理屈に合う方法を考え出しました。夜行われる聖餐会に間に合うように教会に帰って来られるので、日曜学校は休んでトレーニングに参加するのです。わたしはバス代をためて、すべて計画しました。1回目のトレーニング前日の土曜日、母にその計画を話しました。

母の目に悲しみと失望が浮かぶのが見えました。でも母は、「これはあなたが決めることだけど、あなたはこれまで何が正しいか教えられてきたわよね」と言っただけでした。その夜、「選べ、正義を」(『賛美歌』152番)の歌詞が頭から離れませんでした。壊れたレコードのように何度も何度も響いていました。

日曜日の朝、母にはわたしが教会に行くのだと思ってもらえたらいいと願いながら片手に水泳のバッグを、もう一方の手には音楽のバッグを持ちました。外に出てバスの停留所へ行きました。そのとき偶然にも、水泳競技場方面のバスの停留所は、わたしが立っている側にあ

*1台のバスはわたしを  
教会の召しへと運び、  
もう1台は  
世界レベルの  
水泳選手になるという  
子供のころからの  
夢へと運んでくれます。  
幾度となく弾いた  
賛美歌の歌詞が  
答えを与えてくれました。*

り、教会方面のバスの停留所は反対側でした。バスを待っていると気持ちが落ち着かなくなってきました。心の中で、その日の日曜学校のために計画されていた賛美歌、「今日われ善きことせしか」(『賛美歌』137番)が繰り返し聞こえてきます。この賛美歌はリズムが難しく、歌詞も複雑で、高い音があるので、しっかりした伴奏がなければめっちゃくちゃになることを、わたしは経験から知っていました。

ほんとうはどうすべきかと考えている間に両方のバスが来て、水泳競技場へのバスがわたしのために止まりました。教会方面のバスも止まりましたが、わたしがいつもそのバスを利用することを知っていた運転手は戸惑った表情でわたしを見ました。数秒間、わたしたち3人は互いの様子を見交わしました。一体何をぐずぐずしているの？ わたしは主を選んだのでしょ(「主の方には」『賛美歌』165番参照)。主が望まれる所に行くって、決めたんでしょ(「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番参照)。もうずっと前に、わたしは、主の戒めを守る決心をしていたはずです(「戒めを守る人を」『賛美歌』192番参照)。

理性が心に追いつく前に体が反応していました。わたしは猛然と走って通りを渡り、水泳競技場方面のバスには発車するよう合図しました。料金を払い、教会へ向かうバスの後部座席から、水泳の夢が反対の方向に去っていくのを

見ていました。

その日わたしが泣いたのは、御霊を感じたためだと皆は思いました。でもほんとうは、子供のころからの夢がついてきたために、そして、安息日に水泳をしようという考えを抱いたことを恥じて泣いたのです。しかし、その日曜日、それまでと同じように、そしてその後もそうだったように、わたしは自分の召しを果たしました。

大学に進学するころまでに、わたしは支部の何人かに指揮とピアノを指導しました。大学に入ってから引き続きピアノを弾き、オルガンのレッスンを受けました。水泳競技をあきらめたとき、南アメリカに行く機会は永久に失われたと思いますが、ブリガム・ヤング大学で音楽修士号を取った後、コロンビアで伝道しました。伝道中、ピアノを教えました。コロンビアの聖徒たちに音楽の賜物<sup>たまもの</sup>を残したかったのです。コロンビアの子供も青少年も、ピアノを学ぶ機会を得るために暑い日差しの中を何マイルも歩いて来ました。彼らも片手から始めて、両手で弾けるように上達していきました。ピアノを弾くために彼らが払った犠牲は、わたしが払った犠牲より大きいものでした。

バプテスマを受けてから50年以上たちました。故郷のフィンランドから随分遠くを旅しましたが、いつでも、どこでも賛美歌を弾ける人を必要としていました。万国共通の言語である音楽は、多くの場所で理解と愛をつなぐ橋を架けています。

今、わたしの手は関節炎のためにゆっくりとしか動きません。たくさんの、より優秀な音楽家がわたしの跡を継いでくれました。わたしが教会員となったばかりのころを振り返り、わたしが払った犠牲、何マイルも歩

コロンビアでの伝道中、  
ピアノを教えました。  
子供たちと青少年は、  
音楽の賜物<sup>たまもの</sup>を得るために  
大きな犠牲を払い、  
暑い日差しの中を  
何マイルも歩いて  
習いに来ました。

いたこと、我慢したものを思うと、母はよく悲しくなると言います。そのころの寒さが原因で関節炎になったのではないかと母は思っているのです。でもわたしは喜んで「戦いの傷跡」を体に残します。わたしは喜びも悲しみも音楽に注ぎ込みました。指を通して笑うことと泣くことを学びました。

天の御父と指導者がわたしを心にかけてくださり、幼い少女にあのような難しい責任を果たすよう依頼してくださったことを思うと、感謝の気持ちでわたしの心はいっぱいになります。あの召しのおかげで、わたしは福音をしっかりと理解することができ、ほかの人たちも音楽を通して御霊を感じられるよう手伝うことができました。わたしは、たとえピアノがまったく弾けない少女であっても、新しい改宗者に召しが必要であることの生きた証拠です。わたしは最初の召しを通して、神に不可能はなく、神はその子供たち一人一人に計画と目的を持っておられることを知りました。また、音楽を通して、回復されたイエス・キリストの福音に対する揺るぎない証を得たのです。■



# 機能する ワード 評議会

教会機関誌

ラリー・ガント

末日聖徒は、困っている人々の生活に祝福をもたらすワードや支部の評議会を活用しています。



2011年5月22日の夜、けたたましいサイレンの音とともに、巨大な竜巻がアメリカ合衆国ミズーリ州ジョプリン市の中心部で地面に達し、家屋や人命に多大な被害が及びました。ジョプリン第1ワードも激しい旋風に襲われましたが、クリス・ホフマンビショップとワード評議会は直ちにワードの会員の安否確認を始めます。

「わたしたちは、ワード評議会であらかじめこのような事態に備えるための話し合いを重ねていましたから、対応計画は万全でした。また、何をしたらよいかを知るために、御霊にも頼りました。電気も来ない、携帯電話もつながらない、という中でわたしたちは祈り、答えに耳を傾け、そして、答えを受けました。いつも答えがあったのです。ビショップであるわたしにとって、会員たちが『何をしたらいいですか』ではなく、『すでに完了したことを報告します』と言ってくれたのは、実に満ち足りた経験でした。」

ジョプリンでの対応は、ワード評議会の一致の力を示しています。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は次のように書きました。「ワード評議会集会は教会の中でも最も重要な集会の一つです。神権定員会と補助組織の指導者がビショップリックと一緒に話し合い、計画できるからです。……教会のあらゆる評議会や委員会の中で、ワード評議会こそ御父の子供たちを助けるうえで最も大き





な影響力があるものだとはわたしは思います。」<sup>1</sup>

### 愛と信仰により一致する

エクアドルの密林地帯にある人里離れた村落プエルト・フランシスコ・デ・オレラナでは、教会員が愛と信仰で強く結ばれています。月例の支部評議会では互いへの思いやりが表れます。評議会では、まず、個人と家族に焦点を当て、次にプログラムをどのように活用するかが話題になります。そして靈感がもたらされます。

仕事を見つける助けが必要な会員も多くいます。支部評議会は、会員の問題は地元で解決できる場合が多いことが分かっています。健康に問題のある若い娘を抱えたシングルマザーが必要としていることにどう対応するか、評議会で話し合ったときには、扶助協会の会長が、娘を近くに置いてなお母親が働ける仕事の情報を持っていました。

支部評議会ではさらに教会の力を活用しています。例えば、LDS 職業支援サービスが提供するキャリアワークショップ関連の資料<sup>2</sup>もその一つです。この支部では、クラスを設けて一人の会員が教師になりました。支部のほかの会員がもっと良い仕事を見つける手助けをするためです。

支部会長会の第一顧問ラミロ・レイエス兄弟は支部評議会についてこう言っています。「わたしたちは主の御手に



### 効果的な評議会を開くための 必須事項

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、その著『評議会で行うカウンセリング』(*Counseling with Our Councils*) で次の 3 点を提案しています。

「第 1 に基本に焦点を当てることです。』『手引き 第 2 部——教会の管理運営』の第 4 章の指針に従ってください。これはオンライン上の LDS.org の Serving in the Church (教会における奉仕) にも掲載されています。

「第 2 に、プログラムではなく、人に焦点を当てることです。」「新会員からワードに馴染んでもらうための手立て、あまり活発でない会員の活発化、青少年の抱える問題、個々の会員の経済状況、シングルマザーや夫に先立たれた女性に必要なこと、そうしたことを話題に採り上げるよう」努めてください。

「3 番目は、評議会というものは、協議と意見交換の場であって、単なる報告や講義の場ではないということです。包み隠すことなく話せる雰囲気を作ります。そこでは、どんな人やグループも大切に、どんな意見も貴重なのです。」個人の見方や環境は皆異なりますから、会員の必要を理解するには、一人一人がそれぞれの考え方を持ち寄って助け合えばいいのです。

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老、  
“Counseling with Our Councils” (1997 年)、106、109、112 参照



使われる者です。主は、わたしたちの働きを通じて、御自分の目標を達成されるのです。」

### 神殿へ続く道

アメリカ合衆国ニューヨーク州リバプールで初等協会の会長を務めるメリッサ・フィスク姉妹は、ワード評議会集会に出席するたびに、その力を再認識します。あるとき、ノートを探そうと自分のバッグに手を入れると、28人の初等協会の子供たちがニューヨーク州パルマイラ神殿の階段に立っている写真がたまたま出てきました。どの子もハチに刺されています。集会に耳を傾けていた彼女は一瞬写真に

気を取られて、ほんの短い間でしたが、あの日のことを思い出しました。ワードの初等協会が子供たちに神殿の庭の神聖な雰囲気味わわせたいと考えて、パルマイラへ連れて行った日のことです。不幸なことに、子供たちがブランケットを広げたとき、うっかりハチの巣を刺激してしまったのです。

全員が手当てを受けた後、指導者は「さあ、神殿に触れてみましょう」と誘ったのですが、子供たちはもっとハチがいるのではないかと怖がって近づこうとしません。そこで、親や指導者が一列に並んで立ち、神殿へ続く道を作りました。そのために子供たちは勇気を得て、前に進むことができたのです。

メリッサは、ワード評議会集会に再び注意を向けると、こう考えました。「神殿に向かって進むときに、みんながあの

## ワードや支部の評議会にかかわる人たち

神権組織や補助組織の次の指導者が二つの役割を持って評議会に参加します。(1) ワード評議会の一員として、ワードで必要なことや懸案事項にビショップが解決策を見つけれられるよう助ける。(2) 各組織を代表する。参加者は、愛の精神で結束し、

### ビショップリック

ビショップリックはワードのすべての会員、組織、活動に責任を負います。ビショップはワード評議会を管理しますが、顧問と話し合ってから決めることにより、また適切な場合は、評議会でも話し合ってから決めることにより、より良い結論を下すことができます。

(『手引き 第2部——教会の管理運営』4.1；4.2参照)

### ワード書記

「ワード書記はワード評議会集会で出された割り当てや決定を記録する。……また、教会の記録作成ソフトウェアを使って、関連する統計情報も準備する。」

(『手引き 第2部』4.6.4)

### 幹部書記

「幹部書記は……ワード評議会集会の議事予定案を準備する。ビショップは幹部書記に、それぞれの割り当てをワード評議会の構成員に確認する助けを依頼することもできる。……幹部書記は、ワード評議会と神権役員会との連携が保たれるようにすることができ。」

(『手引き 第2部』4.6.5)

### メルキゼデク神権指導者

大祭司グループリーダーと長老定員会会長は、それぞれが管理する男性の霊的および物質的な福利に責任を持ちます。ビショップは、家族に関してビショップが行う働きの一部を定員会とグループの指導者に委任することができます。

(『手引き 第2部』第7章参照)

### ワード伝道主任

ワード伝道主任は、ワードの伝道活動への取り組みを調整します。伝道主任は専任宣教師およびワード宣教師と一緒に働きます。ビショップはワード評議会集会で伝道活動に関する話し合いの進行を伝道主任に依頼することができます。

(『手引き 第2部』5.1.3参照)

ような愛に満ちた友人や指導者に囲まれていたらいいのに。」

そのとき、扶助協会会長がある困っている姉妹のことを話すのが聞こえ、メリッサの考えは遮られました。「彼女はこの日曜日に教会に出席しなかったんです。もうじき神殿訪問があることを、訪問教師には必ず伝えてもらいましょう。」

長老定員会の会長が付け加えます。「あの家族は今大変な状況にあります。ホームティーチャーと連絡を取って、何かできることはないか、確認します。」

若い女性の会長も発言します。「ベビーシッターが必要なら、若い女性たちもお手伝いできます。」

メリッサがワード評議会に参加している人たちの表情を見ると、心からの愛と関心を持っている様子がかがえまです。彼女の顔にほほえみが広がりました。「主は、御自分

の子供たちが守られ愛されるように道を備えてくださったの  
だわ。」彼女は考えました。「それがワード評議会という  
わけね。」

ジョプリンやプエルト・フランシスコ・デ・オレラナやリ  
バプールと同じように、世界中の教会指導者はワードや支部  
の評議会がもたらす祝福を常に見いだしています。そのよ  
うなときに、指導者は評議会から並々ならぬ力を受けます。  
それによって、御自分の子供たちに祝福を注ぎ、業を成し  
遂げようとされる主の助けをすることができるのです。■

注

- 1. M・ラッセル・バラード, *Counseling with Our Councils: Learning to Minister Together in the Church and in the Family* (1997年), 102
- 2. 『キャリアワークショップ 参加者用ワークブック』(35163 300) は store.lds.org または資料管理部配送センター、教会職業支援センターから入手が可能です。

ワードや支部の個人や家族に仕え、彼らを強めます。(ここで言うワードやビショップ  
リックは、支部や支部会長にも当てはまります。)

**扶助協会会長**

扶助協会会長は、ワードの18歳以上の女性を代表します。女性たちが信仰を深め、個人の義を高め、家族と家庭を強め、困っている人々を助けられるよう、できることをすべて行って援助します。

(『手引き 第2部』第9章参照)

**若い男性会長**

若い男性会長は、ワードの12歳から18歳までの若い男性を強めるよう努力します。会長は顧問の助けを受けて、アロン神権の会長会(ビショップリック)を助け、行われている地域では、スカウトプログラムを監督します。

(『手引き 第2部』8.3.4参照)

**若い女性会長**

若い女性会長は、12歳から18歳までの若い女性を強めるよう努力します。また、「神聖な聖約を交わしてそれを守り、神殿の儀式を受けるふさわしさを身に付けられるように、若い女性一人一人を助ける」責任があります。

(『手引き 第2部』10.1.1)

**初等協会会長**

初等協会会長は、ワードの1歳半から11歳までの子供を代表します。ワード評議会がワードの子供に影響を及ぼすような問題について話し合う場合、初等協会会長の見解が役に立ちます。

(『手引き 第2部』第11章参照)

**日曜学校会長**

日曜学校会長は、日曜学校の時間に行われる、福音に関するあらゆる指導に責任を負います。「日曜学校会長は、ワード評議会集會に出席する際、会員たちが教会や家庭で学習と教授を改善することができるようにするために、提案を準備して来る。」

(『手引き 第2部』12.2.2)

中央初等協会会長  
ローズマリー・M・  
ウィクソム



# 語り合い，耳を傾ける 時間を持つ

意思の疎通をさらに円滑にするための今日の<sup>きょう</sup>努力は、  
家族に永遠の祝福をもたらします。

**完** 壁<sup>かべ</sup>な社会であれば、どの子供も学校から帰ると焼きたてのチョコチップクッキーが載ったお皿とミルクの入った深いコップが待っていて、母親は子供の一日を振り返って、話したり耳を傾けようとしていることでしょう。わたしたちは完璧な社会に暮らしているわけではありませんから、クッキーとミルクは皆さんの都合で省いてもよいかもしれません。でも「語り合い，耳を傾ける時間」は省かないでください。

29年前、大管長会第二顧問を務めていたジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）は、人々が家族と一緒にほとんど過ごさないことを嘆きました。考えてみてください。29年前に、総大会で管長はこう言ったのです。「今日の家族が抱えている大きな問題の一つに、一緒に過ごす時間が少なくなっていることが挙げられます。……ともに過ごす時間は貴重なものです。ともに語り合い、話を聞き、勇気づけ、事に処する方法を教える時間が必要なのです。」<sup>1</sup>

子供と一緒に過ごし、話をしているうちに、子供のことが分かるようになります。そして子供も親のことが分かるようになります。わたしたちが優先する本音の部分は、子供一人一人との語らいの一部となります。

皆さんが子供に伝えたい最も大切な心からのメッセージは何ですか。

預言者モーセは、申命記でこのように教えています。

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。

きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、

努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」（申命 6:5 - 7, 強調付加）

もう一つ付け加えたいと思います。「そして、ともに夕べの食卓を囲むときも。」

家族と永遠と一緒にいたければ、今日からそのための備えを始めることです。永遠の命に向かってともに道を歩むとき、子供との語らいに時間を費やすことは、永遠の家族を築くための投資です。

アメリカ合衆国イリノイ州のある母親は、子供と語り合う時間をどうやって作ったのか、こう話しています。

「子供たちが小さかったころ、わたしには楽しみにしていたテレビ番組がいくつかありました。……残念ながら、それらの番組は子供たちが寝る時間にちょうど重なるのでした。

……あるとき、わたしは番組を見ることを最優先し子供たちをかなり後回しにしていたことに気がつきました。それからしばらくはテレビをつけたままで、子供たちに寝る前のお話を読



もうとしました。でも、心の奥ではそれが最良の方法でないことを知っていました。テレビを見る習慣のために自分が失っていた時間や日々について深く考えているうちに罪悪感がわいてきて、この習慣を変えようと決めました。テレビは絶対に消せるのだと自分に言い聞かせるまでには、しばらく時間がかかりました。

テレビを見るのをやめて2週間ほど過ぎたころ、重荷がなぜか軽くなったように感じました。気持ちが楽になり、今までよりも何だか清らかな気持ちになりました。そして自分の選択が正しかったことが分かりました。』<sup>2</sup>

寝る前は語らいに最適の時間です。

ヒラマンは若い兵士たちについてこのように言っています。「彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。」

(アルマ 56:48)

彼らを教えたのは「母親たちの言葉」でした。母は子供と語らいながら、神の言葉を教えたのです。

### 思いを伝え合う

語らいから生まれる良いものがたくさんあります。そして、サタンはそこで交わされる言葉に力があることを知っています。わたしたちが言葉を交わし、耳を傾け、励まし合い、ともに活動するとき家庭にもたらされる心の安らぎをくじこうと勇んでいます。

サタンは、ジョセフ・スミスと父なる神と御子イエス・キリストとの重大な会話をやめさせようと試みたものの、この神権時代におけるイエス・キリストの福音の回復を阻止するという企ては徒労に終わりました。



ジョセフの言葉によれば「すぐにわたしは何かの力に捕らえられた。その力は完全にわたしを圧倒し、わたしの舌をしびれさせるほどの驚くべき力を振るったので、わたしは物を言うこともできなかつた」とあります（ジョセフ・スミス—歴史 1：15）。

この敵はわたしたちの舌をしびれさせることを喜びとし、わたしたちが向き合っている心の中にある思いを言い表すのを妨げるためならどんなことでもします。彼は隔たりがあること、注意力が散漫なことを喜び、騒音を好みます。よそよそしい付き合いを望んでおり、目を見て話すときに伝わる声の温かみや本音を封じ込めるものなら、どんなものでも喜ぶのです。

### 子供の心に耳を傾ける

耳を傾けることは話すことと同じくらい大切です。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はこう言いました。「愛をもって耳を傾けるなら、何を言うべきか悩む必要はありません。御霊……〔が〕語るべき言葉を教えてくれることでしょう。」<sup>3</sup>

耳を傾けることによって、周りの人たちの胸

の内が分かります。天の御父はその子供一人一人のために計画をお持ちです。もしわたしたちの子供一人一人に備えられた個々の計画をかいま見ることができたらどうでしょう。もし、彼らの持つ霊的な賜物<sup>たまもの</sup>を伸ばす術<sup>すべ</sup>を知ることができたら。もし、子供がその潜在能力に到達できるよう励ます術を知ることができたら。もし、子供一人一人が幼い信仰<sup>あかし</sup>を証へと育てるために、どんな助けができるのか知ることができたらどうでしょう。

どうすれば分かるのでしょうか。

耳を傾けることから始めましょう。

ある末日聖徒の父親はこう語りました。「わたしは子供に話しているときよりも、耳を傾けているときの方がはるかに有益です。……子供は、受け売りの、ありきたりの偉そうな答えを欲しがっているのではないことが、次第に分かってきました。……子供にとっては、わたしから答えをもらうことよりも、自分から質問して、自分の問題について話せる方が重要なのです。話し終えるころには、十分にしっかりと聞いてやっているかぎり、わたしの答えをまったく必要としないのも普通のことです。答えはすでに見つけているからです。」<sup>4</sup>

最も重要な事柄を絞り込むには時間がかかります。語り、耳を傾け、励ますのは、すぐにできることではありません。そういうことにせっかちになってはいけませんし、予定を立てるものでもありません。なすべきことをやっているうちに起こるものです。つまり、何かを一緒に行うときに偶然起こります。一緒に働き、一緒に作り、一緒に遊ぶのです。テレビのスイッチは切って、気の散る世俗のことは頭からぬぐい去り、お互いのことに集中するとき起こります。

さあ、それが難しいところです。不必要なものすべてを遮断したところで、今度は次に起こることに備えなくてはなりません。最初は、静かすぎて息が詰まるかもしれません。次には気まずくて無駄な時間だと思えるかもしれません。忍耐してほんの少し待ってください。それから楽しむのです。周りの人だけに集中し、彼らのことについて尋ね、そして耳を傾け始めるのです。親であれば子供の関心事を話

題にしてください。昔を振り返って笑い、そして将来を夢見ましょう。たわいない会話から意義深い話し合いに発展することさえあります。

### 永遠の目的を優先する

昨年の春、若い女性のあるクラスを訪問したときのことで。教師は生徒たちに、優先項目を10挙げるように言いました。わたしもすぐに書き始めましたが、正直に言うと、最初に思いついたのはこれぐらいでした。「第1: 台所のペン入れの引き出しを掃除する。」全員がリストを書き終えたところで、若い女性の指導者は何を書いたかを皆で発表しましょうと言いました。最近12歳になったばかりのアビーという女の子がわたしの隣に座っていました。これはアビーの書いたリストです。

1. 大学に進学する。
2. インテリアデザイナーになる。
3. インドに伝道に行く。
4. 神殿で帰還宣教師と結婚する。
5. 子供を5人産んで、自宅を持つ。
6. 子供たちを伝道に送り出し、大学に行かせる。
7. 「クッキーで喜ばす」おばあちゃんになる。
8. 孫を甘やかす。
9. 福音をもっと勉強して、人生を楽しむ。
10. 天の御父のもとに戻ってともに住む。

わたしはこう思いました。「ありがとう、アビー。あなたは、天の御父がわたしたちすべての人に用意して下さった計画を自分のものとして描くことを教えてくれました。人生という道を歩むときに、どんな回り道をする事になってもあなたは大丈夫。昇栄して天の御父のみもとに戻るといふ最高の目標を目指して歩めば、きっと到達できるわ。」

アビーは、この永遠の目的という認識をどこで培ったのでしょうか。それは家庭から、家族から始まるのです。わたしは彼女に「そういう優先順位を定めるために、家族でどんなことをするのか」と尋ねました。

アビーはこう答えました。「聖文を読むほかに、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を学んでいます。」それからこう付け加えました。「たくさん話をします。家庭の夕べや、一緒に

夕食を取っているとき、それから車で移動しているときに。」

ニーファイはこう書いています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教〔する。〕」なぜでしょうか。「どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるため」です(2 ニーファイ 25:26)。

家族で語り合い、耳を傾け、励まし合い、そして一緒に何かをするとき、わたしたちを愛してくださいる救い主にさらに近づくことができます。意思の疎通をさらに円滑にするための今日この日の努力は、家族に永遠の祝福をもたらします。わたしたちはキリストのことを話すとき、キリストのことを喜び、贖いの賜物を喜ぶことにもなることを証します。子供たちは「どこに罪の赦しを求めればよいか」を知るようになるのです。■

2010年10月24日に衛星放送で行われた、ソルトレーク・シティーのステーキ大会での説教から。

#### 注

1. ジェームズ・E・ファウスト「家庭生活を豊かなものにする」『リアホナ』1983年7月号、77
2. スーザン・ヒートン、「Talk Time Instead of TV Time.」*Ensign*, 1998年10月号、73
3. ジェフリー・R・ホランド「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号、16
4. ジョージ・D・ドーラント「Pointers for Parents: Talk Time to Talk.」*Ensign*, 1973年4月号、24



## ブルーベリーとモルモン書

**2,** 3年前、わたしたち家族は、生活のテンポが速く人口の密集した都市部から、ひっそりとした小さな村の外れにあるへんぴな場所に引っ越しました。近くには、手入れする人のないブルーベリー畑がありました。わたしたちはその所有者の友人を通して、好きなだけブルーベリーをとってよいという許可を得ました。

その年の夏は毎週何回か朝に、バケツや袋を車に山と積み込んで行き、1時間ほど楽しくブルーベリーを収穫しました。ある日の朝、末の息子ハイ

ラムがついて来たくない様子でした。もうブルーベリーは全部とってしまったのだから、行っても無駄だと言うのです。ところが驚いたことに、収穫はその日が最高でした。ハイラムの見落としていた場所にブルーベリーがたわわに実っており、もう探し尽くしたと言っていた枝には、それまで食べた中でいちばん果汁の多い実がなっていました。

ちょうど同じころ、ワードの青少年の指導者が、8月に新学期が始まるまでにモルモン書を読み通すというチャレ

ンジを10代の会員に課していました。うちの子供たちがこのチャレンジを家に持ち帰ったので、我が家は全員、このチャレンジに取り組みました。

わたしたちがモルモン書を読み終えると間もなく、『リアホナ』2005年8月号が届きました。そこには年末までにモルモン書を読み通すようにというゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）のチャレンジが載っていました。ハイラムと兄のジョセフは大喜びでした。我が家では預言者のチャレンジをすでに達成してしまったと思ったからです。そこで年長のセスとベサニーは、ヒンクレー大管長はこれまでに何回読んだかにかか

ブルーベリーは全部とってしまったのだから、行っても無駄だとハイラムは言います。





わらずもう一度読むように言っているのだと指摘しました。

ハイラムとジョセフは聞きました。「でも、どうしてなの。隅々まで読んだのに、ほかに何を学べというの。」

皆黙ってしまいました。だれかがふとこう言いました。「ブルーベリーを全部とってしまったと思ったときのこと、覚えているかなあ。でも、また行ってみると、いつももっとたくさんあったよね。何度行っても、ついこの間行っただけでも、いつでも山のようであったよね。」

わたしたちはすぐに理解しました。近くのブルーベリー畑でおいしい実がたくさん見つかるように、モルモン書を読むと、いつでも新しい真理が見つかり、霊的な養いが受けられるのです。そこでわたしたちは、もう一度モルモン書を読み始めました。

預言者のこのチャレンジを受け入れてから、それまでに何度も読んだモルモン書の言葉をまた読みました。でも、新しい環境、新たにぶつかる問題に適用しようとする、見方も理解の仕方も変わりました。モルモン書を真剣に読むならば、新たな発見があり、救い主に近づくことができます。■

スエレン・S・ウェイラー  
(アメリカ合衆国、ジョージア州)

## 行かなくちゃ と 思 っ て

そのころ、アルゼンチンのブエノスアイレスでバプテスマを受けてから2年半たっていましたが、わたしを教えてくれた長老の一人から言われた言葉がまだ耳に残っていました。「わたしには分かります。あなたは

宣教師ですよ。」そのとき胸を貫いた感動が確かなものかどうか知りたくて祈ったときに、力強い答えがあったことも覚えていました。20歳だったわたしには、伝道に出る準備をすべきだということが分かっていました。

でも、わたしなどが宣教師になれるのでしょうか。わたしに福音を教えてください。わたしは違います。それに、仕事を辞めることなどできるのでしょうか。帰還してからどこに住めばよいのでしょうか。そのころ住んでいたのは人の家の片隅にある小さな部屋でしたが、それですら探すのにとっても苦勞したのです。

ある晩、帰り道にそんな気持ちや迷いがまた浮かんできました。家に着いたとき、心を決めようと思い、ひざまずいて助けを祈り求めることにしました。祈っていると、レアンドロに会いに行くべきだと強く感じました。わたしが沈んでいるときに大きな力になってくれていた友達です。

しかし、真夜中に起こすというのはどんなものでしょうか。わたしは躊躇しました。レアンドロが朝早く起きて仕事に行くことを知っていたので、その時間に訪ねて行く気にはなれませんでした。悩みながらも、会いに行きたいという気持ちは変わりません。それでもやはりその気持ちを無視することにしました。

代わりに新鮮な空気でも吸おうと外に出て、近所を一回りすることにしました。しかし、部屋のドアを閉め忘れたことに気がつき、家に戻ったのです。部屋に入ると、レアンドロが座っていました。御霊が降り、わたしは息をのみました。感激に幾らか声を詰まらせながら尋ねました。「一体



部屋に入ると、  
レアンドロが座っていました。  
御霊が降り、わたしは息をのみました。

ここで何をしているの。」

「分からないんだ。ただ、君に会いに行かなくちゃと思って。」

わたしは、伝道に出るかどうかわからないことを話しました。レアンドロは証して励ましてくれました。そして、伝道に出るのに必要な書類に記入するのを手伝ってくれました。わたしは翌朝それをビショップに提出したのです。2か月後、わたしはアルゼンチン・サルタ伝道部に召されました。

友達のレアンドロがあ晩の晩主の手に使われる者であったことが、わたしには分かります。そして、真剣に誠心誠意祈るならば、天の御父が祈りを聞いてこたえてくださることを、わたしは疑いなく知っています。■

アルド・ファビオ・マラッカ  
(アメリカ合衆国、ネバダ州)

## わたしはもうだめです

**多** 忙な術後回復期病棟の看護師であるわたしのもとに、ある日一本の電話が入りました。外科手術を終えたばかりのビルという患者の件でした。集中治療室に送られるべきでしたが、ベッドの空きがなかったために、わたしのいる病棟に回されて来るというのです。

患者は間もなく家族と一緒に到着しました。意識がはっきりとしていて基本的な状況把握もでき、不快症状もないようなのでほっとしました。

心拍数と血圧を測り、本人と家族に病室の説明をすると、カルテをつけるためにわたしは廊下に出ました。ベン先が紙に触れた途端、「部屋に

戻って」という声が聞こえました。書くのをやめて振り向きましたが、だれもいません。気のせいかと思いました。すると不意に同じ言葉がもう一度、さらに大きな声で聞こえました。

病室に跳んで戻ると、ビルの首が倍に膨れ上がっています。呼吸も苦しそうでした。頸動脈からの出血を疑い、右手で直接首を圧迫しました。そして、左手を使って、手術を担当した神経放射線科の医師に電話をかけました。この外科医は、早急に医療チームを送ってビルを搬送するから「手を離さないで」と言いました。

首を圧迫していたわたしは、見覚えのある教会の本がビルの枕もとにあるのに気がつきました。そこで、「教会員ですか」と尋ねてみました。

ビルはかすかにうなずくと、ジョージア州アトランタ神殿のオーディナンス

ワーカーだと言い、潤んだ目をしばたきながら「わたしはもうだめです」と言いました。

わたしはだめではないと言い、きっぱりとした口調でこう伝えました。「わたしは来月アトランタ神殿で結婚するんです。あなたも出席してください。」その直後に外科チームが到着し、すぐにビルは連れて行かれました。

結局、ビルの症状は薬の副作用だと分かったのですが、それからの1か月は結婚の準備に大わらわで、ビルのことはほとんど忘れていました。しかし、結婚式の当日、メイトロンに連れられて結び固めの部屋に行くと、見覚えのある顔がありました。ビルの奥さんのジョージアです。今日結婚するので、とわたしが言うと、ビルを探しに行きました。儀式がいよいよ始まるという時になってドアが開き、ビルが入って来ました。ビルはあれから数週間頭痛や吐き気、倦怠感に悩まされていたのですが、やっと良くなってその日、わたしの結婚式があるとは知らずに神殿までやって来たのです。

2年後、夫とわたしはテネシー州ナッシュビル神殿のオーディナンスワーカーに召されました。わたしたちが任命のために神殿に着くと、一人の紳士がドアを開けてわたしを招き入れ、「ナッシュビル神殿にようこそ」と言いました。ビル兄弟でした。

夫とわたしはそこで3年間奉仕しました。ビルはだれに会ってもわたしのことを命の恩人だと言っていました。でもわたしには、ビルを救われたのは主だということが分かっていました。主はビルを救われる過程で、御霊のささやきに心を留めることの大切さをわたしに教えてくださったのです。■

ロマーナ・ロス(アメリカ合衆国、テネシー州)



# 祈った方がいいと思うわ

1975年春、わたしたち家族は西ドイツ・ラインラント地方の青々とした美しい土地に住んでいました。ある雨の降る日曜日、教会から車で帰る途中、森の外れのぬれた路面で横転している車があったので、車を止めて見に行きました。頭上を覆う木々に光が遮られ、日も暮れかけていたため、森の中はすでに暗くなっていました。

大破した車を見てから自分の車に戻ると、タイヤがぬかるみにはまっていた。バックすることはできなかったものの前に進むことはできました。そこで、森の中へ入って行ったのです。この森は前に車で何度か走ったことがありました。たくさんある林道はつながっていて、あちこちに曲がると結局元いた場所に戻ってしまうことがよくあったので、わたしは暗闇くらやみの中をひたすら前進することにしました。

その判断が間違っていたことはすぐに分かりました。ぬれた狭い道はぬかるみに深いわだちがたくさんあり、暗い森の奥へ奥へと続いていたのです。わたしはスピードを落とさないように気をつけました。止まったらぬかるみから抜け出せないと思ったからです。すぐ目の前に、高くなった場所が見えました。地面は固く、車の重量を支えられそうです。わたしはぬかるみから出て考える時間を取ろうと思いました。車を乗り上げ、ぬかるみから脱出しました。

わたしはエンジンを切って車を降りました。ヘッドライトが消えると何も見えません。車に戻ってヘッドライトをつけ、懐中電灯を持って車を一通りチェックしたわたしは、森の中を戻って、来た道を全速力で走るのが最善



車に戻ってヘッドライトをつけ、懐中電灯を持って車を一通りチェックしたわたしは、森の中を戻って、来た道を全速力で走るのが最善の策だと判断しました。

の策だと判断しました。

わたしはできるかぎり後ろまで車をバックさせ、エンジンを少し吹かして、元の林道に突き進みました。すると、車はぬかるみにはまってしまいました。さあ、いよいよ大変なことになりました。車外は漆黒の闇で何の音もしません。車の中にいるのは、妻とわたし、それに怖がる3人の子供たちです。

何かアイデアはないかと妻に聞きました。ちょっと考えると、妻はこう言いました。「祈った方がいいと思うわ。」子供たちはすぐさま静かになりました。わたしは助けを求めて、へりくだり必死に祈りました。祈っていると「チェーンをつけなさい」というはっきりとした考えが浮かびました。

安息日の服のまま、愛する妻は25センチもの深いぬかるみの中で懐中電灯を持っていてくれました。その明かりの中で、わたしは素手で後輪から泥を落としてチェーンを装着しました。わたしたちは信仰と確信をもっともう一度祈ってから、エンジンをかけました。車はゆっくりとぬかるみを進んで行き、ついに舗装した道路に戻りました。

真っ暗闇のぬかるみから抜け出た喜びで、どなたの助けで森から脱出したのかをわたしは忘れそうになっていました。それを思い出させてくれたのは、5歳の娘のこんな言葉です。「パパ、天のお父様って、ほんとうに祈りにこたえてくださるのね。」■

スコット・エドガー（アメリカ合衆国、ユタ州）

# みんなブレックを知っている

教会機関誌

アダム・C・オルソン

**オ**ヌラ・“ブレック”・ボンネにとって、バスケットボールがすべてでした。15歳になったときには、ブレックはフランス領ポリネシアの新星として、国内の成人チームの中でもトップクラスのチームでプレーしていました。ブレックのあだ名は英語の“black”のつづりを間違えてつけられたものですが、彼の才能に間違いはありませんでした。

しかし、ブレックはさらに上を目指していました。プロの選手としてヨーロッパでプレーしたいと思っていました。そして何よりも、サウスパシフィックゲームズで金メダルを取ることを望んでいました。

その夢をじゃましているように見える唯一の障害は、教会でした。

## 目的を果たす男

当時ブレックがプレーしていたチームは教会がスポンサーとなっていました。ブレックは教会にも、またふさわしく能力ある若い男性は皆伝道に出るよという預言者の勧めにも、あまり関心がありませんでした。

ブレックはすでに、伝道に出ないとビショップに断言していました。2年も休んでしまったらプロとしてプレーできるはずがないと思ったのです。

しかも、伝道に出ている間にサウスパシフィックゲームズが開かれます。サウスパシフィックゲームズは4年に1度開かれていて、タヒチバスケットボール連盟はブレックを代表チームに入れることに乗り気でした。ブレックはようやく、父親に言われるあの言葉を聞かなくて済むようになります。ブレックがうぬぼれていると必ず言われた言葉です。「みんな、ブレックを知っている。でも、彼は金メダルを取っていない。」

ブレックの父親、ジャン・バプティストは良い意味でそう言うのですが、ブレックは嫌で仕方ありませんでした。その言葉を聞くと、ブレックはタヒチ中のバスケットボールファンに知られていても、サウスパシフィックゲームズのメダルがないことを思い知らされるのです。彼の父親は、第1回サウスパシフィックゲームズで男子チームの一員として金メダルを取っていました。

ブレックの使命は父親にその言葉を言わせないことでした。ほかの使命を果たす時間などありません。

オヌラ・  
“ブレック”・ボンネと  
ミランダ・ボンネは  
長年タヒチで  
バスケットボールを  
してきました。





ブレックの  
バスケットボールを  
愛する心は、  
試しであるとともに、  
祝福となったのです。



「幸せは、主の望まれる方法で生活し、神と人に仕えるときに訪れるのです。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「備えは祝福をもたらす」  
「リアホナ」  
2010年5月号, 67

## 思いの変化、心の変化

伝道に対する思いとは裏腹に、ブレックは教会の活動に参加し続けました。16歳のとき、教会のダンスパーティーで、ブレックは勇気を振り絞ってミランダ・マリテラギにダンスを申し込みました。ミランダも優れたバスケットボール選手で、金メダルを取る夢を抱いていました。彼女の父親も金メダルを取った初代の代表チームの選手です。

ミランダを誘って数秒後に曲が終わってしまいました。そこで、二人は次の曲を踊りました。それはその夜の最後の曲でした。そのときブレックは、ダンスがずっと終わらないでほしいと思い始めていました。

ブレックは神殿で結婚することも、ましてや会員と結婚することも、考えていませんでした。しかし、その後の2年間、ミランダをよく知るにつれて、考えが変わり始めました。ある日、ミランダの家で、彼女が若い女性で作った作品が目にとまりました。そこには「わたしは神殿で結婚します」とありました。

ミランダと、ミランダが神殿結婚を固く決心していることに興味を抱いたブレックは、自分の計画を考え直しました。もっとまじめに教会に集うようにしようと決めました。いろいろな決意をしていくうちに、生活の中で聖霊を感じられる行動を取るようになりました。

## 決意

一つの決意は18歳で祝福師の祝福を受ける準備をすることでした。祝福師が祝福の中で、ブレックが伝道に出て、神殿で結婚すると述べたとき、ブレックは御霊を感じました。「神がほくに望んでおられることはそれだと確信しました」と彼は言います。

当時のタヒチ代表チームがメダルを取る可能性がありそうでした

が、ブレックは家族から支えられて、自分の望みよりも神の望まれることを優先しようと決意しました。その決断は簡単ではありませんでした。プレーすることへの圧力は大きいものでした。そして、神の御心みこころに従うという彼の決意が一度ならず、何度も試されることがすぐに分かりました。

タヒチで宣教師として奉仕し始めて1年が過ぎたころ、バスケットボール連盟から、1か月だけチームに戻ってサウスパシフィックゲームズに出場できないかと声をかけられました。

ブレックの伝道部会長は、大会に出ることでブレックが伝道部に戻って奉仕するのに支障を来すのではないかと心配し、靈感を通して次のように言いました。「行きたければ行ってもかまいません。でも、ここに戻ることはできません。」

ブレックはメダルを欲しいと思いましたが、何が何でも欲しいとは思わなくなっていました。伝道で驚くべき経験をしていました。バスケットボールのためとはいえ、残りの1年を棒に振りたくありませんでした。

ブレックは伝道地にとどまりました。

代表チームは金メダルを取りました。

## 異なる状況でも同じ決意を

伝道を終えて名誉の帰還を遂げたブレックは、ミランダとタヒチ・パペーテ神殿で結婚し、家庭を築き始めました。また、タヒチ代表チームでもプレーし始めました。

ミランダも女子の代表チームでポイントガードとしてプレーしていて、サウスパシフィックゲームズに出場する準備をしていました。

しかし、大会の日が近づくと、二人は二人目の子供をもうけるべきだと強く感じました。

大会まで1年もありませんでした。子供のことは先に延ばして、ミランダが出場できるようにしてもよさそうでした。女子代表チームにメダル獲得の見込みがあったのです。

しかし、二人は神の御心に自分の思いを添わせる方が、自分の望みを遂げて得られるどんな成果よりも大きな祝福をもたらすことを過去





の経験から学んでいました。注意深く研究して祈った結果、彼らは家族を優先することになりました。

1999年、ミランダが妊娠8か月のとき、女子チームが金メダルを取りました。

### みんな、ブレックを知っている

ブレックとミランダは過去10年間、フランス領ポリネシアの最高レベルのチームでバスケットボールをしてきました。全国選手権やトーナメントで優勝したり、2003年と2007年のサウスパシフィックゲームズでタヒチ代表チームに参加したりしました。

2011年の大会にも二人で出場しましたが、このときブレックは男子チームの監督でした。ミランダと女子チームは金メダルを取りましたが、男子チームは銅メダルを取り、またしてもブレックが夢見ていた金メダルを逃しました。

ブレックは、神の御心よりも自分の望みを遂げていたらどんな人生を歩んでいただろうとふと考えることがあります。

「たぶん金メダルを持っています。プロに

なっていたかもしれないし、そうでなかったかもしれない」と彼は言います。

しかし、二人は決意してきたことを後悔していません。今よりもっと幸せになっていたとは思えないからです。

ブレックはこう語ります。「わたしは神殿で結婚しました。すばらしい妻と4人の愛くるしい子供がいて、教会にもずっと集っています。どれもバスケットボールだけでは得られなかったものばかりです。主を第一にしたことで得られた祝福なのです。」

主を第一にしたことで父親にからかわれなくなったわけではありませんが、あの言葉に別の意味が加わりました。数年前、連盟がリーグの試合を日曜日に開催することを検討していました。各クラブチームの部長がそのことについて話し合うために集まりました。「ブレックの意見は聞きましたか」と尋ねる人がいました。

提案は却下されました。

ブレックが主を第一にしたことで、だれもがブレック自身だけでなく、彼の信仰についても知るようになりました。■

**ブレックとミランダにとって、スポーツでの成功よりも家族の中での成功の方が大切になりました。**

## 「自分でも聖文は研究できるのに、なぜセミナーに行く必要があるのでしょうか。」

# 聖

文研究はこれからもずっと一人でやっていくことができます。ですからもしも可能であれば、今は素晴らしい教師や友達とともにセミナーで聖文を研究するという機会を活用してください。

良い教師のもとで学び、研究することで、聖文について今までほんとうには理解できていなかったことについて新しい理解が得られます。教師が、預言者やほかの教会指導者の教えを分かち合ってくれることにより、聖文をもっとよく理解できるのです。

また、多くの場合、クラスメートとともに学ぶ方が、より楽しめます。聖文を読む中で発見した事柄について話す機会もあるでしょう。クラスメートは、ある聖句が好きになるきっかけとなった経験があるかもしれません。そのような経験を聞くことによって、聖文を自分自身の生活に取り入れることができます。また、ほかの人と福音を研究することによって、次のような約束された祝福を享受できるのです。「二人または三人がわたしの名によって集まっている所には、見よ、わたしもその中にいる。」(教義と聖約 6:32)

また、セミナーによって、聖文を研究する基本的な習慣を身に付けることができます。一定の進度で読むように動機づけられるので、それぞれの聖典を読み終える助けになります。マスター聖句について話し合い、暗記する機会もあります。人生のこの時期にセミナーに参加することで、ほかのどんな方法よりも聖文からさらに多くのことを得られることを保証します。

### 新しい友達、新しい考え



セミナーでは、新しい友達と出会い、家族のように親しくなれます。自分だけでは知ることのできなかった、たくさんの新しいことを学びます。楽しいうえに、とても霊的です。一日の良いスタートを切ることができます。現在参加していない人は始めてください。人生が変わります。

カタリーナ・B, 16歳 (アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

### 幸福



セミナーでわたしの一日が始まります。セミナーのおかげで、もっと幸せになり、人々と福音について話そうという気持ちが強まります。聖文をもっと深く研究するので、理解が深まります。

マディ・S, 15歳 (アメリカ合衆国, コロラド州)

### 完璧な組み合わせ



セミナーは精神を高めてくれるプログラムです。自分で勉強するだけでは十分ではないこともあります。個人の聖文研究とセミナーを合わせれば完璧な組み合わせです。教師は素晴らしいし、もし疑問があれば、教師とクラスメートが答えられるように助けてくれます。

ドーソン・D, 15歳 (アメリカ合衆国, アイダホ州)

### 理解を深める



自分一人で聖文を研究するとき、ほかの人と一緒に研究するときほど楽しくありません。でも、みんなで一緒に聖文を研究すると、ほかの人から興味深い考えを学ぶことができます。セミナーを通して、たくさんの興味深い物語について学んできました。そのおかげで聖文の背景についてもっと知ることができ、聖文研究がもっとわくわくするものとなりました。セミナーに登録しようと決めてよかったと思っています。

レベッカ・M, 16歳 (ドイツ, シュレスビヒ・ホルシュタイン)



さらに強い証<sup>あかし</sup>



一つ目の理由は、主は二人か三人が主の名によって集まっている所には、主もその中に入ると言われたからです（マタイ 18:20；教義と聖約 6:32 参照）。主の御霊を感じると、主がわたしたちのためにしてくださったことについて思い巡らす助けが得られます。二つ目は、ほかの人と聖文研究をしていると、書かれていることをもっとよく理解できるからです。お互いの意見に耳を傾けると、自分では気づかなかったことを聞けますし、同じようにわたしたちが自分の知っていることを分かち合うときに、ほかの人も学ぶことができます。三つ目は、わたしがセミナーに行くとき、証が強まるからです。セミナーは自分の証を分かち合い、人の証を聞く機会です。正しい道にとどまる助けが得られます。

ドミートリ・G, 16歳  
(ウクライナ, ドニプロペトロフシク)

ほかの人から学ぶ



セミナーに行くことは、わたしにとって絶対に必要なことです。献身的な教師が聖文に書かれた真理を教え、説明してくれるだけでなく、クラスでの話し合いからも多くのことを学びます。ほかの生徒は学んだ事柄について経験を分かち合ってくれ、わたしが福音や救い主や主の贖罪<sup>しよくざい</sup>についてさらに理解できるように助けてくれます。自分一人で勉強するのは十分とは言えません。クラスの話し合いの中で、自分が抱えていた問題に対する答えを見つけたことが何回かあったからです。真実のイエス・キリストの教会に対する証を養うのに、セミナーはとても重要な役割を果たしてくれてい

ることを証できます。

デンゼル・J, 15歳 (西サモア)

光と真理



セミナーに行くとき、わたしは光と真理を求めて、神の武具を身に着けます（教義と聖約 27:15 - 18 参照）。その武具のおかげで、どんなときも、どんな場所でも主の声に気づくことができます。毎日の聖文研究によって、信仰と証が強められ、試練に遭っても強くあることができます。セミナーに出席することは、光と真理を見だし、聖文を研究し、瞑想するのに最適な方法の一つです。

ノエミ・M, 17歳 (メキシコ, プエブラ)

3つの理由

第1に、わたしは伝道に行きたいので、セミナーに出席します。宣教師は朝早く起きて福音を勉強しなければなりません。セミナーに出席することで、早起きの良い習慣がつかます。第2に、朝は頭がはっきりしているので、学ぶことや勉強することに集中できます。一日のうちで最も良い時間帯に神について学ぶのは賢明なことです。

第3に、自分一人で勉強していたら、わたしの教師のように深く理解することはできないでしょう。教師の導きと教えのおかげで、自分だけで勉強するよりもさらに多くのことを学ぶことができます。

H・チェン・ユアン, 16歳 (台湾, 台中)<sup>タイワン タイワン</sup>

セミナーの祝福



「わたしは、セミナーやインスティテュートプログラムの交わりを通してもたらされる力についてよく知っています。おかげでわたし自身の生活も豊かになりましたし、また、皆さんの生活も同じように豊かになることを知っています。このプログラムにより、皆さんの周りには守りの盾ができて、世の誘惑や試練から身を守ることができるようになります。福音の知識を得ることで、偉大な祝福を受けることができます。そしてわたしは、教会の若い人々にとって、教会のセミナーやインスティテュートプログラム以上に、神聖な事柄に関する特別な知識を得るためにふさわしい場所はないことを知っています。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老  
「真理を受け入れる」  
『聖徒の道』1998年1月号, 68 参照

次回の質問

「純潔の律法を破るのがいけない理由を友達に説明するにはどうすればよいでしょうか。」

あなたの意見をお聞かせください。2012年5月15日必着で [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) に投稿するか、[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) まで電子メールをお送りください。下記へ郵送することもできます。

Liahona, Questions & Answers 5/12  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず含めてください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載に対する同意文 (18歳未満の場合は保護者が書いた同意文も必要です [電子メール可])。

# なぜセミナーに行くのか

## セミナーに参加する

「セミナーの助けにより、皆さんはイエス・キリストの教えと贖罪をさらに理解し、信頼するようになるでしょう。聖文を愛するようになったとき、皆さんは主の御霊を感じるでしょう。神殿に参入する備えと、伝道活動に携わる備えができるでしょう。」

若人の皆さん、わたしは皆さんにセミナーに参加するようお招きします。毎日、聖文を研究してください。教師の言葉に注意深く耳を傾けてください。そして、学んだことを祈りの気持ちで実践してください。」

トーマス・S・モンソン大管長  
"Participate in Seminary,"  
seminary.lds.org

**生**徒や学生がセミナーやインスティテュートから得られる最も大切なことは何だと言えるでしょうか。セミナー生徒のあるグループが教会教育システムの教育委員長である七十人のポール・V・ジョンソン長老に同じ質問をしたとき、長老はこのように答えました。最も大切なことは「イエスがキリストであるという真の証を得ることです。真実の知識とは、霊的な知識です。それは聖霊から一人一人の心に与えられる知識です。最も力強い真理であり、それこそがセミナーやインスティテュートから得られる最も力強いものです。真理は皆さんの知識を変えるだけでなく、皆さんの人となりを変え、皆さんの世界観を変えます。このような、より高い教育を受けることが、ほかの教育を完全なものとする助けとなるのです。」（“A Higher Education,” *New Era*, 2009年4月号, 15）

これまでセミナーやインスティテュートに出席することから得られるすばらしい祝福について多くの中央幹部が語ってきましたが、ジョンソン長老はその中の一人です。なぜセミナーに行かなければならないのかと考えている

皆さんに、預言者や使徒が語る、すばらしい理由をもっとたくさん紹介しましょう。



## 幸福と成功の基を築く

「セミナーは、若い男性と女性が、幸福で満ち足りた人生の土台を築けるように助けをくれます。」

十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット長老  
「今こそ伝道に出る時です」  
『リアホナ』2006年5月号, 88





## 福音の真理を学ぶ

「わたしはすべての青少年がセミナリーに行けるようにと願っています。なぜなら、彼らはそこで多くの福音の真理を学ぶからです。セミナリーによって、多くの若人が自分のなすべきことは何かについて理想を抱くことができ、そして伝道に行くのです。」

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）、  
 “President Kimball Speaks Out on Being a Missionary,” *New Era*, 1981 年 5 月号, 49

## セミナリーから得られる 3つの力を見いだす

「セミナリーには3つの強い力があ（り）ます。第1に、同じ価値観を持つ若人を引き合わせます。青少年は同じ信仰を持ち、聖文を愛する仲間であることを好みます。第2に、証を持つ教師に青少年を引き合わせます。青少年はその教師が証するときに熱意を感じます。第3に、セミナリーは若人を聖文に熱中させるきっかけを作ります。」

大管長会第一顧問  
 ヘンリー・B・アイリング管長  
 「聖文研究について語る」  
 『リアホナ』2005 年 7 月号, 11

## 優先する

「学生の皆さん、優先順位を決めるときは躊躇せずにはほかの選択科目を捨て、皆さんの人生のまさに土台となるセミナリーやインスティテュートのクラスを受けてください。そして一度登録したらきちんと出席し、一生懸命勉強してください。友達にもそう勧めてください。そうすれば決して後悔しません。約束します。」

十二使徒定員会会長 ボイド・K・バッカー会長  
 「自由意志と規制」  
 『聖徒の道』1983 年 7 月号, 117 - 118 参照



## 生活に祝福を招き入れる

「わたしは教会のセミナリーという教育制度とインスティテュートプログラムに感謝しています。わたしはここにいるすべての高校生の皆さんに、セミナリープログラムを大いに利用してほしいと思います。そうするなら、皆さんの生活は大いに祝福されるでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長（1910 - 2008 年）、  
 “Excerpts from Recent Addresses  
 of President Gordon B. Hinckley,”  
*Ensign*, 1995 年 12 月号, 67

## セミナリー卒業証書を得る

「定期的にセミナリーに出席し、卒業証書を得ていただきたいと思えます。セミナリーで学ぶことは、若い男性（と若い女性）が味わえる最も霊的な経験となることでしょう。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長  
 （1899 - 1994 年）  
 「高貴な生得権を持つ若人へ」  
 『聖徒の道』1986 年 7 月号, 47；  
 「教会の若い女性の皆さんに」  
 『聖徒の道』1987 年 1 月号, 90





# エクアドルにある ジャングルの中の セミナー

人里離れたジャングルで、セミナーがこのような青少年に大きな影響を与えています。

教会機関誌

ジョシュア・J・パーキー

**エ**クアドルのキトの東、火山やアンデス山脈を越えた所で、急に地形はアマゾンのジャングル地帯に変わります。そこには、うっそうとした森と水量豊かな川があり、サル、オオハシ、そしてピンクのイルカも生息しています。

プエルト・フランシスコ・デ・オリャーナという町もあります。エクアドルのほかのどこからも遠く離れた町です。15年前、その地域には比較的少ない人数しか住んでいませんでした。しかし、石油が発見されてから産業が興り、職を求める人々と教会員もやって来たのです。

## 小さな支部のセミナー

支部が組織されたとき、オスカルのようにすでに教会員だった青少年が数人いましたが、ほとんどは最近の改宗者です。そして、彼らの心は火のように燃えています。「ぼくたちは強いですよ」とオスカルは言います。

2010年の9月、支部が組織されてわずか1年でセミナープログラムが始まりました。「2、3年前に集会が開かれ始めたころは、会員は数人しかいませんでした。青少年はほく

だけでした」とオスカルは言います。「でも、どんどん青少年の数が増え、6人に、そして10人になり、今ではもっといます。」

青少年の中には午前中に授業がある人と午後授業がある人がいるので、セミナーは午前8時から9時までと、午後4時半から5時半までの、2つのスケジュールで運営されています。

プログラムの青少年の数は多いわけではありませんが、セミナーは出席している青少年の生活を変えました。

## なぜ出席するのか

「セミナーはぼくにとって大きな祝福です」と言うのは最近改宗したルイスです。「立派な宣教師になれるよう助けてくれています。教会に入ってから、たくさんの試練や誘惑に直面しましたが、自分が正しいことをしていると知っているので、強くあり続けることができました。」

そう感じているのはルイスだけではありません。「教会員になって、まだ日が浅いのですが」とアリアナ・Jは言います。「バプテスマを受けてからずっとセミナーに出席しています。喜んで出席する理由は、イエス・キリストの福音についてたくさんの真理を学ぶことができ、それによって心が希望で満たされ、理解力が増すからです。」

セミナーは、  
多くが改宗したばかりの、  
エクアドルのこのような青少年を  
強めています。



セミナーに出席することによって、アリアナは福音に根を下ろすことができました。「セミナーのクラスの一員でいられるのは、わたしにとって祝福です」とアリアナは言います。「クラスはわたしの霊を強め、将来良い妻、母、教会の指導者、そしてもしかしたら専任宣教師にもなれるように、わたしを備えてくれています。」

「何もかも初めてのことですが、とっても幸せなんです」とヘラルドは言います。「自分が天の御父にもう一度会う機会が得られる正しい道を歩んでいることを知っています。聖霊がそう確信させてくださいました。ぼくはただ努力して終わりまで堪え忍ぶだけです。」

### 緊張する必要はない

ウォルター・Aにとって、初めセミナーは少し怖かったと言います。「最初来たときは緊張していました。でも、教室に入ったら特別な気持ちがありました。聖文を勉強するときに感じる愛が感じられたからです。そして、学んだことによって、帰るときは強められた気がしましたし、心に喜びが感じられました。セミナーは天の御父が青少年に用意してくださった最高の祝福の一つです。」

アリアナの兄のヘラルドも同じように感じています。「セミナーが生活の大事な部分を占めるようになったことを感謝しています」と彼は言います。「いつか伝道に出る日のために備えてくれています。セミナーで、神がぼくのために備えてくださった救いの計画について学びました。出席するどのクラスも、日の栄えの王国を受け継ぐことができるという希望を与えてくれますし、イエス・キリストの福音を確かに受けたと確信させてくれます。」

時々、ヘラルドは授業中にかなり疲れることがあります。まず弟を学校まで送って行き、急いで妹を迎えに家に帰って一緒にセミナーに行かなければなりません。でも、それも苦になりません。

「末日聖徒イエス・キリスト教会はぼくの人生を変えてくれました」と言うのはアベル・Aです。彼も伝道に出る備えをしています。「預言者の教えについて学んでいます。ジョセフ・スミスが大好きです。彼は多くの問題に負けず、勇敢に真実の教会を回復しました。彼のように勇敢でありたいと思います。」

多くの青少年は犠牲を払ってセミナーに出席しています。難しいこともあります。エクアドルのプエルト・フランシスコ・デ・オレリャーナの青少年は努力する価値のあることだと感じています。

「聖文にある『押し進む』という言葉について考えると」とアベルは説明します。「人生に優先順位をつけるという意味だと思うんです。セミナーは優先事項の一つです。それによってぼくの人生が変わったように、ほかの青少年にも同じ事が起こり得ると思います。」

エクアドルのジャングルの奥深くにあっても、イエス・キリストの教会と、青少年のためのセミナープログラムは活発に活動し、自らを変える選択をした青少年の人生を変え続けています。■



# セミナーの後には 何があるのでしょうか

宗教の勉強はセミナーから卒業すればそれで終わりというわけでは  
ありません。まだ素晴らしいことがあなたを待っています。

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

**セ**ミナリーでは聖文を学び、  
同じ年の人たちと定期的  
に集まります。歓迎されて  
いると感じ、御霊を感じることで  
きます。それでは、セミナーを終了し  
たら、そんな経験はおしまいなの  
でしょうか。もちろんそうではありません。

教会のインスティテュートプログラム  
が次のステップです。きっと大好きに  
なります。大学に進学するかどうかに  
関係なく、続けて福音を学び、伝道や  
神殿結婚に備え、同じ年ごろの人たち  
と経験を分かち合うことができます。

以下はインスティテュートについて  
の基本的な質問に対する答えです。  
インスティテュートについてもっと詳しく  
知りたい人は、[jp.institute.lds.org](http://jp.institute.lds.org)  
にアクセスしてください。

## インスティテュートとは何でしょうか

インスティテュートは、聖文を学ぶク  
ラスや、預言者の教え、伝道や神殿結  
婚の備えのクラスなど、様々な福音の  
研究クラスで構成されています。イン  
スティテュートによっては、複数のク  
ラスから選ぶことができる所もあります。

## どのような人が参加できますか

すべてのヤングシングルアダルトは  
インスティテュートのクラスに出席す  
るよう強く勧められています。結婚して



## インスティテュートに 関するデータ

### 登録生徒数:

350,000人以上

### 開催場所数:

2,500か所以上

### 受講可能なコース数:

15の基本コースに加え、  
オプションコースが数コース

### 最初のインスティテュート:

アメリカ合衆国アイダホ州  
モスコ (1926年)

### アメリカ合衆国およびカナダ

以外の最初のインスティテュート:  
メキシコ (1959年)

### インスティテュートの目的:

以下のことができるようヤングアダルト  
を助けることです。イエス・キリスト  
の教えと贖いについて理解しそれに  
頼る。神殿の祝福を受ける資格を  
得る。天の御父とともに永遠の  
命にあずかるため、自分自身と  
自分の家族と周りの人々を  
備える。

いても独身でも、18歳から30歳の人  
ならだれでも出席することができます。

## インスティテュートはどこにありますか

地域によってはインスティテュート  
の建物が大学のキャンパスに隣接し  
ている所もあります。その他の地域  
では教会の施設や別の場所でイン  
スティテュートが開かれています。自分  
の地域のインスティテュートプログラ  
ムについて知るには、ビショップまたは  
支部会長に尋ねるか、[jp.institute.lds.org](http://jp.institute.lds.org)  
から近くのインスティテュート  
を検索してください。

## なぜインスティテュートのクラスを 受講すべきなのでしょう

トーマス・S・モンソン大管長は次の  
ように言っています。「インスティテュ  
ートへの出席を優先するようお願いし  
ます。……考えてみてください。友人  
ができ、御霊が感じられ、信仰が強め  
られるのです。インスティテュートに出  
席して聖文を熱心に研究するならば、  
あなたの行うすべてのことにおいて、  
誘惑を避ける力と聖霊の導きを受ける  
力が増し加えられると約束します。」  
([jp.institute.lds.org](http://jp.institute.lds.org), 2009年4月  
21日) ■



# 2テモテ3:16-17

使徒パウロは、聖文がわたしたちの生活にどのように祝福をもたらすかを教えています。



## すべての聖文

「神に話しかけたいときには、祈り、神から話しかけてもらいたいときには、聖文を読むことができます。なぜなら神の御言葉は神の預言者を通して語られるからです。そして、聖霊の促しに耳を傾けるとき、教えを授けていただけるのです。

最近、神の声を聞いていない人は、聖文を新鮮な気持ちで読み、その言葉に耳を傾けてください。聖文はわたしたちの霊的な命綱です。」

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老  
「聖文——救いを得させる神の力」  
「リアホナ」2006年11月号, 26

## 良いわざ

聖文はどのような良い業を行う備えをするのに役立つでしょうか。以下に挙げるのは、明らかな良い業の例です。もっと多くのことを思いつきますか。それを日記に書いてください。

- 専任宣教師として奉仕する
- 教会の召しを果たす(定員会会長会やクラス会長会など)
- 福音を教える
- 証を述べる
- 福音を分かち合う
- 教会についての友人の質問に答える

## 正しくし

聖書で用いられているギリシャ語の原語は、文字どおり「再びまっすぐにする」と意味します。そのように、聖文は自分を正しく保ち、まっすぐで狭い道をたどる助けとなります(2ニーファイ9:41参照)。

「神の霊感を受けて書かれたものであって、人を教え戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それぞれによつて神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである。」

## 戒め

戒め——通常は、思いやりをもって与える叱責、懲らしめ、説教、矯正。

## 準備ができて

準備ができる——整えられる、備えられる。



## 教え

「真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。人の行いは、行動について研究するよりも、福音の教義を研究した方が早く改善されるのです。」

十二使徒定員会会長 ボイド・K・パッカー会長  
「恐れてはならない」『リアホナ』2004年5月号, 79

編集者注——このページの目的は、聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。



# 墜落

# しないように

今小さな問題を解決することによって、  
将来大きな問題が生じないようにしてください。

教会機関誌  
アダム・C・オルソン

## 霊的な点検



「わたしたちは改善する必要のある分野を知るために、自分の霊的な状態を定期的に点検する必要があります。」

わたしたちは通常、  
聖なる御霊の助けによってこれらの小さな弱点に気づきます。……わたしたちは、御霊や教会指導者、愛する人々、同僚、友人から指摘されることに注意深く耳を傾ける必要があります。」

七十人 マルコス・A・アイトカイトス長老  
“Honesty in the Small Things,”  
Ensign, 2003年9月号, 30

**ア**ンドレイは小さいころから飛行機が大好きでした。しかし、多くの人は空を飛ぶことを夢見ますが、アンドレイが考えるのは飛ぶことではありません。飛行機の構造に興味があるのです。ルーマニアのこの16歳の若者は航空整備士になるために勉強をしています。ルーマニアでは、10代の若者は、大学か専門学校に進学する準備をすることができます。アンドレイは飛行機が大好きなので、すぐに航空専門学校に進学することに決めました。

航空整備士は、故障した飛行機を修理するだけではありません。彼らが行う最も大切なことの一つは、飛行機の点検と整備を行って故障しないようにすることです。プロペラから着陸装置やその間の細かい部分に至るまで、飛行機のあらゆる部分を定期的に点検するのです。

「飛行機の墜落の原因となる可能性がある小さな問題を見つけるのは難しいかもしれません。でも、それを見つけることは、飛行機全体をまた元に戻そうとすることに比べたら易いことです」とアンドレイは語ります。

飛行機にとっても教会員にとっても、定期整備スケジュールを守り、それを省かないことは、機械的に、あるいは霊的に、命の危機に陥る前に様々な問題を見つけ出して修正するために重要なことです。

## 霊的な整備

アンドレイは、人口がおよそ200万の都市、ブカレストに住んでいます。しかし、教会はルーマニアでは比較的新しく、ブカレストには二つの支部に足る会員がいるだけです。アンドレイと彼の家族は支部のほかの会員たちから遠い所に住んでいます。アンドレイは、学校でも友達の間でも周囲の至る所で世の影響を感じています。定期的に霊的な整備を続けなければ、いわゆる霊的な墜落がどれほど簡単に起こるかを彼は知っています。

忙しく生活することはできます。アンドレイは、学校の勉強やフットボール、コンピューターに時間を使うほかに、祈りや断食、聖文研究、また祭司としての責任を果たすことにも時間を使っています。また、遠距離に住んでいるためにオンラインで、必ずセミナーにも「通う」ようにしています。


これらのことを行うことは、定期的  
に実施する霊的な整備の一部であり、命の危険がある霊性の墜落に至る前に弱点を見つけ出して修正するのに役立ちます。

「定期的に行わなければならないこと、つまり習慣にすることが幾つかあります」と彼は語ります。「日々の生活にかまけてはなりません。」

## 霊的な墜落

アンドレイは、定期的に霊的な整備を行わなければ、ストレスや仲間から





の圧力などの力に負けて誘惑に抵抗できなくなるということを学びました。そのようなことがあると、やがて自分の目標、自制力、そして最終的には霊的な力を失ってしまいます。

推力のない飛行機が高度を失うように、人は罪を犯すと、霊的な力と高度を失い、天から遠ざかり、遅かれ早かれ霊的な墜落に至ってしまいます。

人は墜落した後、救い主の贖罪しよくざいがあるので再び元の状態に戻ることは可能ですが、問題が小さい間に、すなわちそれが原因となって霊的な惨事を招く前に、その問題を解決する助けとして救い主の力に頼る方がはるかに良いでしょう。

### 省くことの危険性

飛行機の機械整備を省くことなど、アンドレイはまったく考えたことはありません。省くことは選択肢にないのです。「それについては法律があります」と彼は語ります。しかし、たった一度整備を省いたとしても、「多分、何事も起こらないでしょう」と述べています。

恐らく、整備を省くことに伴う最大の問題は、飛行機がすぐに墜落するということではなく、すぐには墜落しないということです。「今日きょう整備を省いて何も悪いことが起こらなければ、明日も省こうという誘惑にもっと簡単に屈してしまうでしょう」と、彼は語ります。

定期的に整備を省くと、飛行機に、あるいはわたしたちにかかる力とストレスが原因となって、遅かれ早かれ何か損なわれます。「ついには墜落してしまいます」と彼は語ります。

神が定期的に行う霊的な整備についても律法を与えられたのはこのためです。「しばしば〔教会に〕ともに集いなさい。」(3 ニーファイ 18:22。強調付加) 常に祈るようにしてください(3 ニーファイ 18:19 参照)。熱心に聖文を調べてください(3 ニー

ファイ 23:1-5 参照)。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。」(教義と聖約 121:45。強調付加) 定期的に神殿を訪れてください。<sup>1</sup>

それらの律法を守り、定期的に霊的な整備を行えば、正しい航路を飛び続けることができます。

「飛行機は離陸し、世を離れるように造られています。それが、天の御父がわたしたちに望んでおられることです。定期的に整備すると、わたしたちが行きたいと思っている所、つまり天へ無事に帰ることができます」と、アンドレイは語ります。■

注

1. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月号、92-93

### 霊的な整備のチェックリスト

**航** 空整備士にはたいてい、定期的に点検する必要がある項目のチェックリストがあります。教会指導者は定期的に霊的な点検を行うよう提言しています。<sup>1</sup> 時々霊的な健康状態を検査するのに、次の幾つかの質問を役立てることができます。その返答で気分になることがあれば、両親が、ビショップまたは支部会長に話してください。

- 定期的に心から祈っているだろうか。
- 聖典と生ける預言者の教えの中にある神の言葉をよく味わっているだろうか。
- 安息日を聖なる日として守り、定期的に教会の集會に出席しているだろうか。
- 断食をし、快く自分の一を納め、献金しているだろうか。
- ほかの人々を快く赦しているだろうか。
- ほかの人々に仕える方法を日ごろから見つけているだろうか。
- いつも救い主を思い出し、救い主の模範に従っているだろうか。
- 思いと言葉を清く保っているだろうか。
- すべてのことに正直だろうか。
- 知恵の言葉を守っているだろうか。

注

1. ジョセフ・B・ワースリン「真理を守り」『聖徒の道』1997年7月号、20 参照

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。」(2 コリント 13:5)

# 聖文の 世界に浸る

セミナーで変わらしましょう。

(1ニーファイ 19:23 参照)



イラストレーション: ケアリー・ヘンリー。  
背景の絵画は、1841年の「行」アーノルド・フリーバク画 © 1951 年  
「ファイ」アーノルド・フリーバク画 © 1951 年  
「アヒタイ」アーノルド・フリーバク画 © 1951 年  
教会歴史博物館の許可による複製

# お話の時間

「わたしは両親をうやまいます。  
わたしは家族を強めるために  
自分のできることをします。」  
(わたしの福音の標準)

ヒラリー・ワトキンス・レモン

実話をもとに書かれました。

「さあ、みんな。お話の時間  
にしましょう。」お母さん  
が呼びかけました。

ジョシーは一日中、お話の時間を  
楽しみにしていました。毎晩、ジョ  
シーと二人の弟ベンとウェスは、お母  
さんやお父さんと居間に集まり、それ  
ぞれその日にあったことを話します。

今夜は、朝のお知らせの時間に使  
うジョシーの台本を読む練習をお父  
さんが手伝ってくれると言っていたの  
です。朝のお知らせを読み上げるこ  
とはジョシーの学校では特に名誉の  
あることでした。明日、ジョシーは学  
校の放送で自分の大好きな歌を少し  
だけ流し、その日の行事予定と給食  
のメニューを発表することになってい  
ました。

ジョシーは、自分の台本の練習をす  
るのがうれしくて、居間にかけつけま  
した。

ジョシーがソファーにぴよんと飛び  
乗ると、そこにいたお父さんが言いま  
した。「さあ我々が有名なアナウン  
サーの登場です。ジョシー、あしたを  
ひかえて今のお気持ちは？」

「うれしいけど、少し緊張してる。  
全校生徒の前で何か間ちがえたら  
どうしようかと心配なの」とジョシー  
は言いました。

「だから練習するんだよ」とお父さ  
んは言います。「さあ台本をひとと  
り読んでみて。直すところがあるか  
お父さんが聞いているからね」

「ありがとう、お父さん。」ジョシー  
が言いました。

ジョシーとお父さんは回数も分からな  
くなるほど何度も台本を見直しました。  
そしてジョシーが立ち上がり、最後に  
もう一度だけ家族の前で台本を読み  
上げました。お母さんもお父さんも  
拍手がっさいしてくれました。ベン  
はハイタッチをしてくれ、ウェスはほほえ  
んで拍手をしてくれました。

ジョシーはうれしい気持ちと自信に

満ちてねむりにつきました。

次の日、すべては順調にいきました。  
ジョシーは緊張していましたが、学校  
の放送で自分の選んだ曲が流れてく  
るのを聞いて笑顔になりました。お父  
さんと台本を練習してよかったと思  
いました。ゆっくり、はっきりと読んで、  
一度も間ちがえることはありませんで  
した。

「すばらしかったわ。」副校長の  
ブレイク先生が言いました。

学校が終わって、ジョシーはバスを  
待つ列に並んでいました。上級生の  
男の子がふり返って聞いてきました。  
「君が今日のお知らせを読んだ子？」

ジョシーはほほえんで言いました。

「そうよ。」

「何であんな曲を選んだの」とその  
男の子は聞きました。「つまらない曲



だったよな。君のせいで朝のお知らせが台なしさ。」それからかれはジョシーのことをひどくののして、友達と一緒に笑いました。

ジョシーはバスの最前列の席に一人ですわりました。具合が悪くなりました。

家に着くと、お母さんがウェストと遊んでいるのを見えました。

「お母さん、まだお話の時間じゃないのは分かっているけど、今すぐ話してもいいかな。」ジョシーが言いました。

「もちろんよ、ジョシー。」お母さんが答えました。「何があったの。朝のお知らせでうまくいかないことでもあった?」

「うん。全部完璧にできたの。少なくともわたしはそう思ったわ。ある男の子につまらない曲を選んだって言われるまではね。それにその子、わたしにすごくひどいことを言ったの。」

お母さんはとなりにすわるように合

図しました。ジョシーはお母さんのそばに行くと、すわりました。お母さんがぎゅっとだきしめてくれました。ジョシーとお母さんは、ブレイク先生がほめてくれたこともふくめて、その日あったことを全部話しました。

「その男の子とお友達が、ジョシーに失礼な態度だったことが残念だわ」とお母さんは言いました。「でもブレイク先生みたいにジョシーが尊敬している人たちは、ジョシーのお知らせの読み方をとでも喜んでくれたみたいじゃない。お父さんもお母さんも、あなたをほこりに思うわ。ジョシーは一生懸命やった。そしてその成果はあったのよ。」

ジョシーはもう一度お母さんをぎゅっとだきしめて言いました。「ありがとう、お母さん。気持ち落ち着いたわ。」ジョシーは、いつでもお話の時間に行うことができることを知ってうれしく思いました。■



「家庭内では、開放的で率直なコミュニケーションほど大切なものはありません」

十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード長老  
「消せない炎のように」  
1999年7月号, 104





## ともに語る

つぎに挙げるのは、みなさんが自分の家族で「お話の時間」を持てるようにするための提案です。

- 家族と話す時間を毎日数分取れるか両親に聞いてみましょう。食事

- 全員が順番に話し、耳をかたむけるようにします。必ずみんなが話すようにしましょう!

- 家族の意見を尊重しましょう。一人一人が、自分の発言が大切だと感じられるようにしましょう。

## 会話ゲーム

お話の時間のためのアイデアが必要ですか？ 次のゲームを試してみましょう。

**お手玉投げ**——もし家族の人数が多くて、順番にするのが難しければ、お手玉を使ってだれが話す番なのか分かるようにできます。お手玉を持っている人が、自分の言いたいことを言い終わったら、家族のほかの人にそのお手玉を投げます。お手玉がわたった人が、次に話す人です。

**インタビューする人**——二人組を作り、順番にインタビューする人になります。相手への質問をいくつか考えて、質問をします。本物のマイクや録音器具を使ってもよいでしょう。

**あなただったらどうする?**——「もし……ならどうする?」といういろいろな質問を、家族で順番にしていきます。例えば、「迷子になったらどうする?」や「世界中のどこへでも行けるとしたら、どうする?」などです。



## 両親への提案——1対1の時間

**家**族として話すのは楽しいですが、両親が子供と1対1の時間を過ごすことも同じく大切です。1日のうち、どこかの時間を利用して、個別に子供と話をしましょう。家事をするのを手伝ってもらったり、子供のお使いについて行ったり、少しの時間親の部屋で話をしたり、ということを1度に一人ずつ子供を誘ってやってみましょう。ほんの少しの時間が意義深い会話につながることもあります。



# 主は死のなわ目を たたれた



七十人  
七十九人  
パトリック・キアロン長老

「かれらは、死のなわ目を  
たってくださったキリストによって、  
永遠の命を得るのである。」  
(モーサヤ 15:23)

**子** どもたちがまだ小さかったあ  
る晩のこと、わたしたちは  
家族で聖文の研究をして  
いました。わたしたちは救い主について  
読んでから、主が一度も間ちがったこと  
をなさらなかったのはどうしてなのか

話し合いました。  
その日の夜、妻が3才のむすめの  
スージーをねかしつけていると、スー  
ジーは母親を見てこう言いました。「お  
母さん、イエス様は間ちがったことをさ  
れたわよ。」

「どういことなの」と母親はたずね  
ました。

「イエス様は何かをこわされたのよ」とスージーが答えました。

何のことも不思議に思いながら母親  
はたずねました。「イエス様は何をこわ  
されたの?」

「イエス様は死のなわ目をこわされた  
のよ」とスージーは答えました。

妻はスージーと初等協会で歌われて  
いる「光かがやく春の日に」を何度も  
歌ったことを思い出しました。スージー  
はそれで「光かがやく春の日に、はかよ  
りイエスがよみがえられ、死のなわ目を  
たたれた」という言葉を学んだのです。<sup>1</sup>  
スージーの母親は、死のなわ目をこわす、  
つまりたつというのは、わたしたちが死  
んでも、再び生きられるようにするため

に、イエス様が復活されたという意味で  
あることを説明しました。

この二人の会話のおかげで、妻とわた  
しはリジー、スージー、エマの3人のむす  
めたちに、わたしたち一人一人にとって、  
あがないに実際にどのような意味があ  
るのか、いろいろな機会を通して教える  
ことができました。スージーの言ってい  
ることは正しかったのです。イエスは死  
のなわ目をたたれました。しかし、それ  
は間ちがいではありません。それは神  
のあらゆる賜物の中で最も大なるも  
のなのです(教義と聖約 14:7 参照)。

救い主は死を味わい、復活されたこと  
で、わたしたちはそれぞれの正しさに応  
じて天のおん父や家族と再び住むこと  
ができるようになりました。わたしたち  
は、ふさわしければいつの日か不死不滅  
の体と永遠の命を得るとい祝福を受  
けることができます。わたしは、イエス様  
が何かを、すなわち死のなわ目をたっ  
てくださったことに感謝しています。■

注  
1. 「光かがやく春の日に」『子供の歌集』57

(訳注——初等協会の歌「光りがやく春の日に」  
の英語の歌詞には「死のなわ目をたたれた」という  
表現があります。)

右—絵/テイラー・マーン



今月の しょうきょうかいの テーマについて もっと 学ぶために  
この レッスンと かつどうを つかうと よいでしょう。

# イエス・キリストは せいぎを えらぶように 教えておられます

タナーにとって、今年の ふっかつさいは いつもと 同じでは ありませんでした。おじいちゃんが しんでしまったのです。タナーは もう にどと おじいちゃんといっしょに この とくべつな ときを すごすことが できないので かなしく 思いました。

でも、しょうきょうかいの 時間に、タナーは わたしたちが ふっかつさいを おいおいするの は イエスさまが 生きておられるからだ

ということを 思い出したのです。イエスさまが ふっかつされたとき、イエスさまの れいと 体が えいえんに むすびついたので、にどと しを あじわうことは なくなりました。イエスさまが ふっかつされたことで、おじいちゃんを ふくめ、すべての 人が いつの日か ふっかつすることを タナーは 学んだのです。

「イエスさまは 友だち ころの よろこび イエスさまは かみの 子

よみがえり しに かつ<sup>1</sup>と歌いながら、タナーは よろこびで むねが いっぱいになりました。タナーは この よい 知らせを みんなに 教えてあげたいと 思いました。ふっかつさいの 前に となりの 家の げんかんに イエスさまの ふっかつについての せいくを そえて、小さな 花たばを おいてこようと きめました。ふっかつさいの 日の 朝、タナーからの おくりものを 見て、となりの かぞくの みんなが ほほえむ ようすを タナーは そうぞうしました。■

注  
1.「イエス様よみがえる」『子供の歌集』44



## うた 歌と せいぐ

- ヨハネ 13 : 15
- イエス・キリストに ついての あなたが えらんだ 歌
- 『子供の歌集』から おすすめの うた 歌  
——「イエス様よみがえる」  
「イエス様、本当に復活したの」

右—「二ツアインの子供たちを祝福するイエス」デル・パイン画©1989、「ロロ」蓋からよみがえられた救い主 ハリー・アンダーソン画©1991  
「西半球で福音をお教えたイエス」の部 シン・スレット画©1991、「イエスの昇天」ハリー・アンダーソン画©1991、「西半球に福音を告げられたイエス」アインノルド・フリバーク画©1991  
「聖霊を降らせられたイエス」ハリー・アンダーソン画©1991、「聖霊を降らせられたイエス」ハリー・アンダーソン画©1991  
左—絵、シン・スレット画©1991、「聖霊を降らせられたイエス」ハリー・アンダーソン画©1991、「聖霊を降らせられたイエス」ハリー・アンダーソン画©1991



# CTRの かつどう

## せかいの どこで おこった できごとでしょう

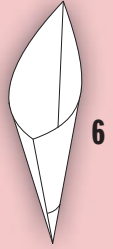
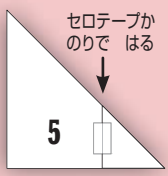
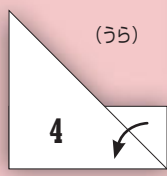
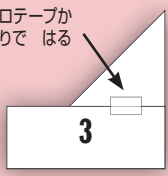
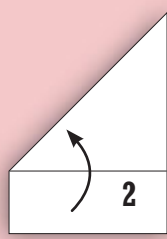
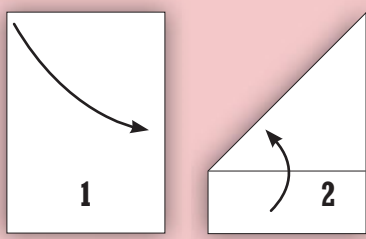
イエス・キリストは ふっかつされた  
後、エルサレムでなく アメリカに いた  
正しい 人人の ところにも おいでに  
なりました。かぞくで それぞれの 絵と、  
できごとが おこった ばしょ(エルサレム  
か アメリカたいりく)を 線で むすびま  
しょう。じゅんばんに せいくを 読んで、  
絵に えがかれている できごとについて  
もっと 学んでみましょう。



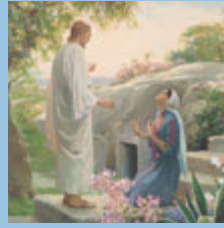
エルサレム

## てづく 手作りの 花たば

タナーの ように、手作りの ふっかつさ  
い用の プレゼントを 作って みましょう。  
白か 色の ついた 長方形の 紙を ようい  
して、下の ステップに したがって 作っ  
て みましょう。円すいの 中に 小さな お花  
や おかしを たくさん つめて、友だちや  
かぞくに プレゼントして おどろかせて  
あげましょう。



子どもたちを しゅくふくされる  
イエスさま  
3ニーファイ17:11-25



マグダラの マリヤに  
みずがたを あらわされた イエスさま  
ヨハネ20:14-18



アメリカたいりくで 教えを  
とかれる イエスさま  
3ニーファイ11:8-11



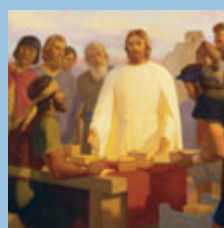
てんに のぼられる イエスさま  
使徒1:9-11



ただ 正しい 人人に  
みずがたを あらわされた イエスさま  
3ニーファイ11:1-8



でしたちに きずを お見せになる  
イエスさま  
ルカ24:36-40



ニーファイ人の きろくについて  
おたずねになる イエスさま  
3ニーファイ23:7-13



でしたちに みずがたを  
あらわされた イエスさま  
マタイ28:16-20

## アメリカたいりく





# イエス様ひま のように

簡略版

はっきりと ♩ = 104-116

詞・曲：ジャニス・カップ・ペリー

1. わ た し も な り た い い イ エ ス さ  
2. (と) な り び と あ い し ほ う し を

ま の よう に こ と ば お こ ま な ち  
ま な ぼ う - こ ろ こ び ま ち

い で あ い を し め そ う - ゆ  
ま しょう イエ ス さ ま の ひ を - お

©1980 Janice Kapp Perry. 版權所有  
教会あるいは家庭における一時的または非営利の使用に限り、複製することを許可する。  
複製の際はこの注意書きを含める。

うし わくも ある け - れ ど みみ か た  
し えま も る ひ と - に は み た ま が

む け よ う ち さ な こ え に た が い に あ い  
さ さ や く ち さ な む ね に

し - あ え イ エ ス さ ま の よ - う

に イ エ ス さ ま - の お - し え ひ

と に や さ - し く - と

# おな 同じ名前と しんこう 信仰も を持って しまいい

きょうかい きかんし  
教会機関誌

ヘザー・リグレー

**マ**リア・Dとダイアナ・Dはただのしまいでなく、<sup>だい なかよし</sup>大の仲良しです。ダイアナは10才、<sup>さい きょねん</sup>マリアは去年の8月で12才になりました。<sup>ふたり</sup>二人はルーマニアに住んでいます。この国には現<sup>ざいやく</sup>在約3,000人<sup>にん きょうかいじん</sup>の教会員がいます。ルーマニアの教会員は、<sup>い</sup>教会に行き、<sup>せいてん</sup>聖典を読み、<sup>い</sup>いのることによって、<sup>イエス・キリスト</sup>イエス・キリストに<sup>たい</sup>対する強い信仰を守り続けています。

「教会で、<sup>かみさま</sup>神様を信じることについて学びました」とマリアは話してくれました。ある<sup>ひ しけん</sup>日試験のとき、<sup>イエス・キリスト</sup>イエス・キリストのお名前を通して天のおん父<sup>ちち たす</sup>に助けを求めたところ、<sup>よい</sup>良い成績が取れたので、<sup>てん</sup>天のおん父がいのにこたえてくださったと<sup>かん</sup>感じたそうです。

ダイアナは、<sup>しよ</sup>モルモン書は信仰を強めるのに役立つと<sup>い</sup>言っています。「モルモン書を読むと、その日は決まっていひになるんです」とダイアナは言います。彼女は、<sup>かのじよ</sup>聖文の中でジョセフ・スミスについての<sup>はなし</sup>話が大好きです。「<sup>だい</sup>ジョセフ・スミスがおいのりすると、<sup>かみさま</sup>神様とイエス・キリストが<sup>たす</sup>助けてくださったんです」と彼女は言っています。■



## チョコレート

<sup>ふたり</sup>二人ともチョコレートが大好きです。  
マリアはブラウニー、ダイアナは  
チョコレートケーキが大好きです。



好きな賛美歌

マリアとダイアナは二人ともピアノをひきます。マリアは「共に愛し合え」という賛美歌が好きです。これは、たがいに愛し合うようにというイエス様のいましめを歌った歌です。ダイアナはこの曲をほとんど完ぺきにひくことができますが、最後のところがいちばん難しいと言います。



神殿を見るのが大好きです

マリアとダイアナは二人ともいつか神殿で結婚したいと思っています。二人が住んでいる地域にいちばん近いのはウクライナ・キエフ神殿です。

ダイアナはもう少し大きくなったらウクライナ・キエフ神殿に参入して、死者のためのバプテスマを受けるつもりです。マリアはもう12才なのでこの儀式を受けることができます。神殿は約800キロはなれた所にあります。

家族がいちばん

マリアとダイアナは両親が大好きです。「お母さんは、わたしたちが病気のときに気分がよくなるように看病してくれます」とマリアは言います。またダイアナは「お父さんはわたしたちを学校に送ってくれます」と言っています。

賛美歌

ダイアナは、イエス様の降誕を歌った「昔、ユダヤの野辺に」という賛美歌が好きです。ルーマニアの教会員は、教会公認の緑色の表紙の賛美歌を使っています。「イムヌリ」とはルーマニア語で「賛美歌」という意味です。





じゅうに し と ていんかい  
十二使徒定員会の

りチャード・G・スコット ちょうろう  
リチャード・G・スコット長老は、

このテーマについて

つぎ はな  
次のように話しています。

# わたしのために立てられた 天のおん父の計画に従うために、 わたしに何ができるでしょうか



せいぶん けんきゅう  
聖文を研究することによって、  
い だい こうふく けいかく  
偉大な幸福の計画  
について学ぶ。



か こ げんざい よげんしゃ こえ みみ  
過去と現在の預言者の声に耳をかたむける。



せいれい  
聖霊のささやきとしてあたえられる心を感じる  
おも したが  
思いに従う。



ひつよう  
必要なときには、  
りょうしん しんけんしどうしゃ じよげん みらび もと  
両親や神権指導者に助言と導きを求める。

い だい こうふく けいかく じっ  
「偉大な幸福の計画を実せんする」『聖徒の道』1997年1月号、84から

# わたしの福音の標準

わたしは、天父がわたしのためにたててくださった計画に従います。

わたしはバプテスマの聖約をおぼえ、  
聖霊のささやきに耳を傾けます。

わたしは正しいことを選びます。  
わたしは過ちを犯したときも、悔い改められることを知っています。

わたしは天父、人々、自分自身に対して、正直になります。

わたしは天父とイエス・キリストのみ名を尊びます。  
わたしは神のみ名を汚したり、らんぼうな言葉づかいをしたりしません。

わたしは安息日に、  
天父とイエス・キリストを身近に感じられることを行います。

わたしは両親をうやまいます。  
わたしは家族を強めるために自分のできることをします。

わたしは心と体を清く神聖に保ち、  
害になるものを取りません。

わたしはつつしみ深い服を着て、  
天父と自分自身をうやまいます。

わたしは天父によるこぼれるものだけを読み、見ます。

わたしは天父によるこぼれる音楽だけを聞きます。

わたしはよい友達を見つけ、人に親切にします。

わたしは今、神殿に参入するためにふさわしく生活します。  
わたしは永遠の家族を持つために自分のできることをします。

## わたしは神の子です

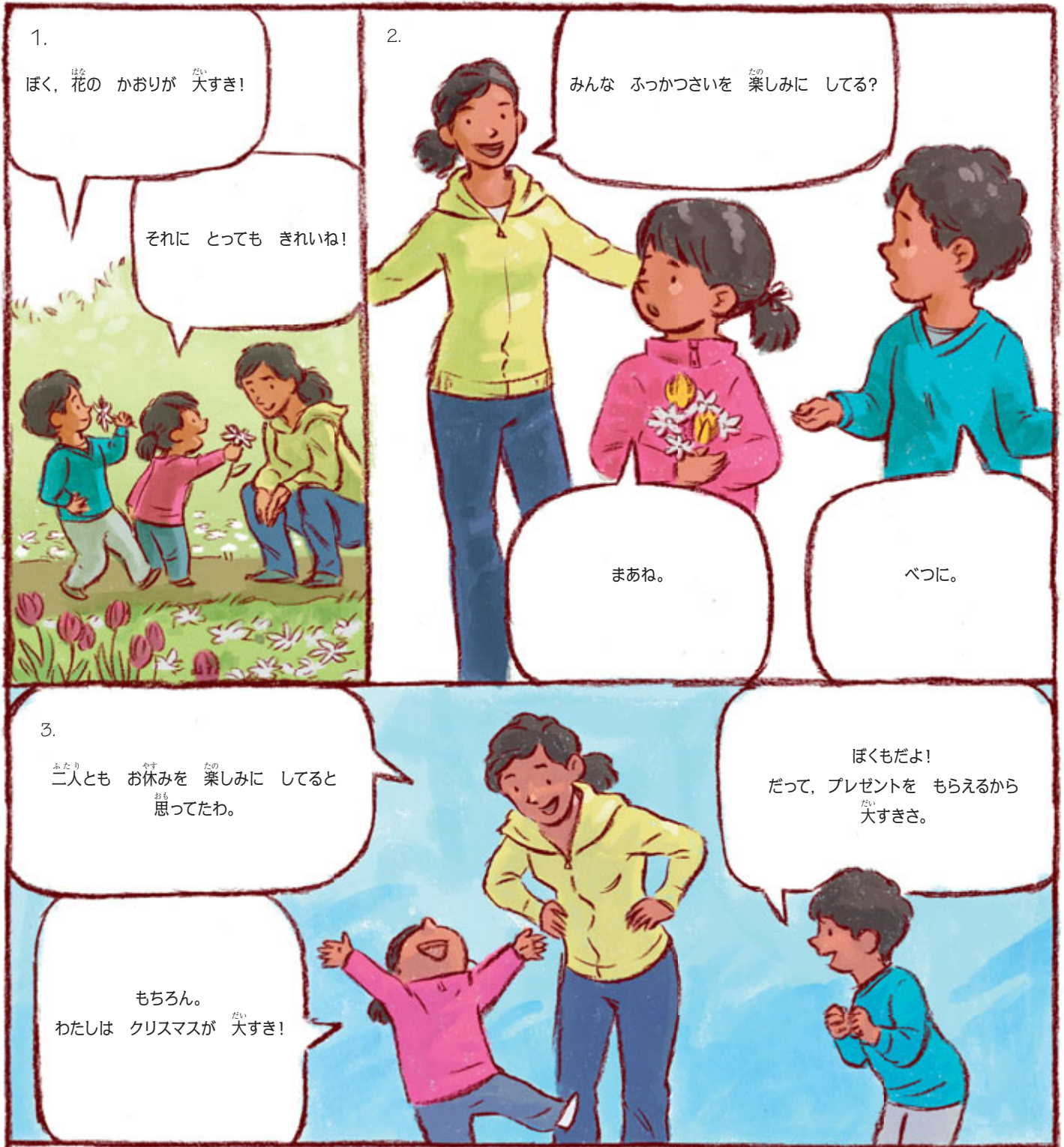
わたしは天父がわたしを愛しておられることを知っていて、わたしも天父を愛しています。

わたしは天父にいつでもどこでも祈ることができます。

わたしはイエス・キリストをおぼえ、従うように努めています。

# ふっかつさいのよろこびをみつける

じつわを もとに 書かれました。



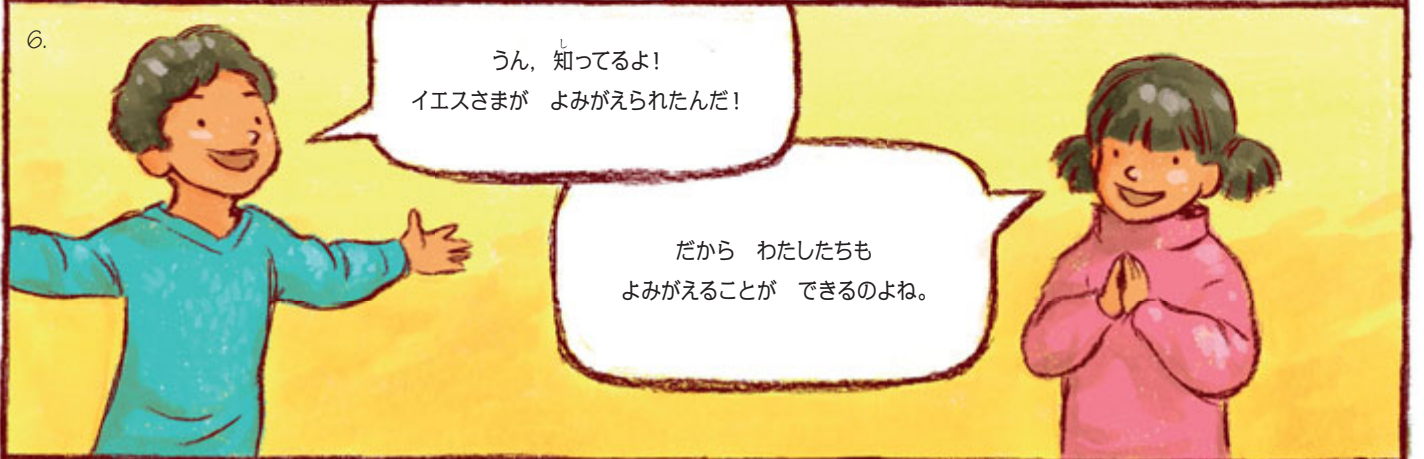




4. 何で ふっかつさいは  
たの 楽しみじゃないの？

ふっかつさいって かなしい 日でしょ。  
イエスさまが なくなれたことを  
きねんする 日だから。

5. ふっかつさいの 日曜日  
に何が あったか おぼえている？



6. うん、知ってるよ！  
イエスさまが よみがえられたんだ！

だから わたしたちも  
よみがえることが できるのよね。



7. そのとおりよ。  
だから、ふっかつさいは  
イエスさまが よみがえられたことを おいわいする  
うれしい お休みの 日 なのよ。

8. ぼく、ふっかつさい  
だい 大好き。

わたしもよ。

# イエスさまが たどられた 道 みち

イエスさまは じゅうじかに かけられてから ふっかつされる 前の 数日の あいだ 間に、いくつかの ばしょで 大切な わざを 行われました。イエスさまの 足あとを たどりながら どこで 何を されたかを 見てみましょう。

2. イエスさまは ロバに のって  
エルサレムに 入られました。  
おおぜいの 人人が、イエスさまを 見て  
とても よろこびました。

6. イエスさまは ふっかつ されました。

5. イエスさまは じゅうじかに  
はりつけに されました。

1. イエスさまは  
オリブ山<sup>やま</sup>という おかの<sup>うえ</sup> 上で  
人人<sup>ひとびと</sup>に 教え<sup>おし</sup>を とかれました。

3. イエスさまは しんでんで  
びょうきの<sup>ひと</sup> 人を いやされました。

4. イエスさまは ゲツセマネの<sup>ところ</sup> そので  
天<sup>てん</sup>のお父さまに おいのりを<sup>らう</sup>して、  
わたしたちの つみの<sup>とが</sup> ために  
たいへんな<sup>つら</sup> くるしみを うけられました。

# 教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は [news.lds.org](http://news.lds.org) にアクセスしてください。

## 世界指導者訓練集会は「真の成長への道」をテーマとして開催された

教会のニュースと出来事

ヘザー・ウィットル・リグリー

**20**12年2月11日に開催された世界指導者訓練集会上において、教会の指導者は「真の成長」の重要性とそれを成し遂げる方法について説明した。

全世界の教会指導者では、大管長会第二顧問ディーター・F・ワークトドルフ管長、十二使徒定員会会員、七十人会長会および教会中央補助組織会長が指導に当たった。

「教会で成長と言うとき、それは新会員のことを指すかもしれませんが。新会員とは8歳でバプテスマを受けた子供と改宗者のことです。しかし、真の成長とは、活発な会員の数で表されます」とワークトドルフ管長は説明した。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう付け加えている。「発展は、個人が生涯をかけて福音に改心することにより個人と家族の忠実さが増すときに実現します。」

毎日の祈り、聖文研究、家庭の夕べ、家庭内の愛、個人として贖いを経験することなど、数値では測れない事柄が、忠実さを増し加えることに含まれるとワークトドルフ管長は述べた。

「細かい期待を際限なく挙げ連ね、イエス・キリストの福音の美と簡潔さを複雑にしてしまうことが多すぎます。しかし、福音の『なぜ』に焦点を当てれば混乱の大部分は消えていきます。」

衛星放送の大部分は「なぜ」という問いかけの答えとなる重要な教義と原則に集中した。

「正しく『なぜ』と問いかければ、『だれ』『何』『いつ』『どこ』『どのように』を正しく決定できます」とワークトドルフ管長は述べた。

### 御父の計画における結婚と家族

「教会を構成しているのは家族です」と十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は述べた。「ワードやステークはささいなことです。家族について話し合うとき、それは教会のまことの成長に目を注いでいるのです。」

パッカー会長は、すべての夫と父親は自分の家庭の神権役員であって、家族を義にかなって管理するべきであると述べた。同様に神権指導者は、たとえ神権の職は様々であっても、適切に導くべきであり、すべてのふさわしい神権者はだれにも劣らない神権を持っていると語った（教義と聖約1:20 参照）。

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、夫と妻、父親と母親は「神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成す」家族を強め、守るために、愛と悔い改めと祈りに基づいた関係を築かなければならないことを強調した（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129）。

「主の再臨のときに、一定の条件が整っていないければ、『全地はことごとく荒廃するであろう』と聖文の中で3度、警告が発せられています。いずれの場合も、この警告というのは神殿で行われる結び固めの儀式を受けていない人類家族の状況と関係があります。これらの昇栄の儀式がなければ、創造の目的が果たされないからです。」

神のすべての子供たちが永遠の命と昇栄を受けるという最終目的を成し遂げるには、家庭、ワード、ステーク、教会全体で真の成長を遂げる必要がある。



## 福音の実践

真の成長と改宗は日々の生活で福音を実践することによってもたらされる。十二使徒定員会のL・トム・ベリー長老とD・トッド・クリストファーソン長老は質疑応答の中で、福音の究極の実践は神殿の聖約を交わし、守ることであると説明した。クリストファーソン長老は聖約に従うことによって生まれながらの人はやがて聖徒に変わり得ると述べた。

ほかの人々に手を差し伸べることは福音の実践の重要な一面である。会員は個人としてまた教会として、物心両面の必要を持つ人々を救い出すために手を差し伸べる責任があると指導者たちは語った。

貧しい者や乏しい者の世話をするために、ほかの宗教や奉仕団体と積極的に協力するべきであるとクリストファーソン長老は述べた。神権指導者は率先してこれらの活動に携わるべきであるが、会員と宣教者もその役割を担うべきである。

パネルディスカッションでは家族を教え導き、メルキゼデク神権者を強め、青少年の信仰と証あかしを築く手助けをすることが強調された。この話し合いには十二使徒定員会のバラード長老とニール・L・アンダーセン長老、七十人会長会のロナルド・A・ラズバンド長老、中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトン姉妹、中央初等協会会長のローズマリー・M・ウィクソム姉妹が参加した。

ラズバンド長老は指導者全員が参画して会員

2012年2月の  
世界指導者訓練集会の  
パネルディスカッションで話す  
十二使徒定員会の  
M・ラッセル・バラード長老。

大 管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は2月の世界指導者訓練集会で次のように述べた。「第一に理解し、次に理解したことを行動に移さなければなりません。……神の言葉を聞いてもそれを実行しなければ、ほとんど価値はありません。」

ワークトドルフ管長は、放送を視聴した後、そして召しにあって奉仕する間ずっと、教会指導者の指示を最大限に生かすために次の3つのことを実行するよう勧めている。

1. 個人として、また評議会として、受けた教えを祈りをもって深く考えて、「なぜ」人に奉仕し、導くのか見いだす。
2. 熟考と話し合いの後、2, 3具体的な行動を決める。その際、ワード、ステーク、各組織、家族、個人、それぞれの事情に合わせて決めるべきである。
3. 行動事項を決めた後は、毎回の評議会で自分の責任と召しの範囲内で、決定事項の経過確認を行う。

たちを活発にする必要があると述べ、アンダーセン長老は青少年はほかの青少年の再活発化と強化にもっとかかわる必要があることを強調した。

### 真の成長を成し遂げる

真の成長は日々の生活で福音を実践することによってもたらされることをウクトドルフ管長は強調して、次のように述べた。

「これらのことを考えるとき、『なぜ』人に奉仕し、導くのか、『その結果何をする』責任が個人、そして評議会にあるのか問うてください。」

### もっと知る

衛星放送の内容は [lds.org/study/other-addresses](http://lds.org/study/other-addresses) にアクセスして、**Worldwide Leadership Training** をクリックすると、多くの言語で閲覧、視聴、印刷、ダウンロードすることができる。■

## 記事の募集

地元のクリスマスの伝統を『リアホナ』で紹介しませんか。

- この時期を家族としてどのように祝いますか。
- 地元ではどのような伝統が広く受け継がれていますか。
- あなた自身と家族が救い主に近づくために、どのような伝統を築き上げてきましたか。
- 以上の伝統に関連して、クリスマスのどのような経験が思い出となっていますか。それらを紹介してください。

あなたの思い出やアイデアを『リアホナ』までお送りください。2012年6月1日までに、[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) に送信してください。■

## 世界に向けた贈り物 “BibleVideos.LDS.org”

2011年の大管長会クリスマスディボーションにおいて、教会指導者は「イエス・キリストの生涯・聖書ビデオウェブサイト」を世界に向けた「贈り物」として紹介した。

Biblevideos.lds.org は、キリストの誕生を予告する天使から救い主の復活まで、キリストの生涯の様々な場面を描写したオリジナル短編ビデオを集めたものである。

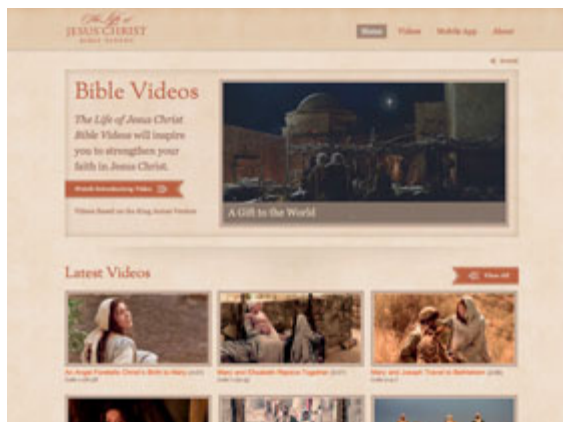
大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長はディボーションの席上でサイトを発表した後、このように述べた。

「それらの短編映画を見た皆さんは、そこに忠実に表現された聖文を読んだときのように、静かに思いをはせることでしょう。皆さんの信仰と聖霊がこれらの世界を変えた出来事にふさわしい感動を作り出してくれるでしょう。」

ビデオは教会がユタ州ゴージェンに新設したLDS映画スタジオ南館から提供された映像を基に制作されたものである。同スタジオは新約聖書聖文コレクションプロジェクトとして2011年8月から撮影を開始している。

プロジェクトでは欽定訳聖書の記述に沿ってキリストの生涯を描いた100以上の小品を制作する予定である。

ウェブサイトにはモバイル仕様があり、英語(BibleVideos.lds.org)、スペイン語(videosdelabiblia.org)、ポルトガル語(videosdabiblia.org)で視聴することができる。いずれはiPad用の無料アプリケーションを配信して、視覚、聴覚、触覚で聖書の物語を経験するという新しい方法が提供されることになる。■



最終的には、キリストの生涯に関する新約聖書の場面を描いた100近くのビデオがイエス・キリストの生涯聖書ビデオ・ウェブサイトから閲覧できるようになる。

## アルゼンチンの会員たちに教える クリストファーソン長老とジェンセン長老

**20**11年11月12日土曜日、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老と七十人会長のジェイ・E・ジェンセン長老はアルゼンチンのサルタを訪れ、青少年、ヤングアダルト、神権指導者、宣教師、会員に語りかけた。

ほかに、南アメリカ南地域会長マービン・B・アーノルド長老と妻のデボナ姉妹、地域七十人ルーベン・スパイテール長老、クリストファーソン長老の妻キャシー姉妹、ジェンセン長老の妻ロナ姉妹が同席した。

クリストファーソン長老とジェンセン長老を迎えたファイヤサイドには1300人近くの青少年と両親が出席し、ほかに中継によりアルゼンチン全土70のステークセンターで1万人が視聴した。

以前に南アメリカ南地域会長を務めたジェンセン長老はこう話した。「もし、わたしの以前の話は何も覚えていないとしたら、預言者トーマス・S・モンソン大管長が語った一言を記憶していただきたいと思います。わたしはモンソン大管長が神のまことの預言者であることを証します。それは、『決意が行く末を決める』ということです。」

わたしたちには選択の自由、つまり決断する能力と特権があり、それらの決断によって自分の行く末を選ぶことになる、と述べた。

ジェンセン長老は一人の友人の話をした。その友人はある晩、飲酒運転をして、事故を起こし、二人を死なせてしまった。ジェンセン長老はその事件を自分と妻の行った選択と対比した。青年時代に、彼が伝道に出るため二人は結婚を延期した。

「伝道から帰還すると、わたしたちは神殿で結婚しました。そこで聖約を交わしました。それ以来ずっと、毎週その聖約を新たにしています。わたしたちは自分たちの行く末を決める決断をしました。」

続いてクリストファーソン姉妹が壇上に立ち、聖約を守ることによってもたらされる祝福について証を述べた。最後にクリストファーソン長老が壇上に立ち、次のように述べた。

「皆さんにとってほんとうに必要なのは愛と信仰だけです。結婚、家族、仕事、就職についてわたしたちを助けてくれるのは信仰です。」

戒めは人生に方向性を与え、ほんとうに大切なものを手に入れる助けになることを強調した。

それから青少年と両親に対して、パンフレット『若人の強さのために』に記されている勧告に従う決意をするよう勧めて、次のように述べた。

「たとえ孤立無援の状態に置かれているとしても、両親が同じ原則に従って

イメージ/シエラ・タリンブル



いることを知っている子供は、そのことが大きな励ましとなることでしょう。」

クリストファーソン長老は、自ら50年近く前に伝道したアルゼンチンの会員たちに愛を示して話を終えた。

クリストファーソン長老とジェンセン長老はサルタに滞在中、地元の宣教師やヤングシングルアダルトと会い、幹部の兄弟たちの愛を伝えた。■

LDS.orgの「今を語る預言者と使徒たち」(Prophets and Apostles Speak Today)から、近代の使徒たちの教えと導きについてさらに閲覧することができます。

**2011年11月初旬に  
アルゼンチン・  
レジステンシア伝道部で  
宣教師たちに話す  
クリストファーソン長老と  
ジェンセン長老。**



2011年12月11日にディーター・F・ワークトドルフ管長によって奉献されたグアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿は教会の136番目の神殿となる。

### グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿の奉献

2011年12月11日曜日、グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿は大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長により3回のセッションに分けて奉献された。奉献セッションの様子は中継で神殿地区の教会員に向けて放送された。

ワークトドルフ管長は、地域の青少年がダンスや歌を披露し、地元の歴史と文化の視覚資料を展示した土曜日の文化の祭典で次のように述べている。「何と美しい神殿でしょう。宝石のように光り輝いています。まさにこの国のこの地域にとっての宝石です。」

グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿は世界で136番目、中央アメリカで5番目の神殿となる。この神殿は約6万人の末日聖徒が利用することになる。

### ブラジルで7番目となる神殿用地の鍬入れ式

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は2011年11月15日に、ブラジルで7番目の神殿となるブラジル・フォルタレザ神殿用地の鍬入れ式を管理した。

「この神殿はここに来て、足を踏み入れるすべての人にとって、神への希望、光、信仰の源となることでしょう。この都市はここに神殿が建てられることによってもっと良い、ほかと違う都市になるでしょう」とベドナー長老は述べた。

神殿はブラジル、セアラ州フォルタレザ、アベニダ・サントス・デュモンに建設される。ブラジル・フォルタレザ神殿の建設はトーマス・S・モンソン大管長が2009年10月の総大会で発表したものである。■

### プエルトリコで開かれた演奏会に数千人の観客が訪れる

2011年12月18日、プエルトリコの5つのステークの会員たちはカグアス市のパセオ・デ・ラス・アルテスで開かれたクリスマス演奏会に参加した。約85名の教会員が演奏に参加し、地域から2,500人余りの観客が詰めかけた。

### アフリカで3番目となるヤングアダルトセンター

2011年11月4日、南アフリカ・ソウェステークのヤングアダルトはヤングアダルトセンターとして新築された建物で初めての活動を行った。

ヤングアダルトセンターはヨーロッパに140か所以上、合衆国に数か所設置されている。ソウェトのセンターはアフリカで3番目となる。ほかの二つはコンゴ民主共和国とジンバブウェ共和国にある。

### ユニークな方法で質問を募る

2011年10月9日にロシアのニジニ・ノブゴロドで行われた伝道活動では「神についての質問」を記入するための巻紙が用意された。

人通りの多い路上で実施された数時間の間に、150人以上が道に置かれた二つのテーブルの前で立ち止まり、マジックペンを手にして、質問を記入した。合計で84の質問が巻紙に記入された。多くの人は回答をその場にいた宣教師に求めた。

LDS.org にアクセスして、この話やその他の話についてさらに閲覧することができます。■



**手放せない羅針盤**

『リアホナ』はわたしにとってこの世の道しるべです。これがあれば迷うことはありません。教会の機関誌を読むと、だれでも自分の必要としていることを見つけてことができると思います。わたしは初等協会の会長をしています。子供たちは機関誌に出てくる自分たちと同じような子供についての話を聞くのが好きです。『リアホナ』は生活の中でなくてはならない羅針盤であって、わたしたちがサタンの落とし穴を避けるよう助けてくれます。

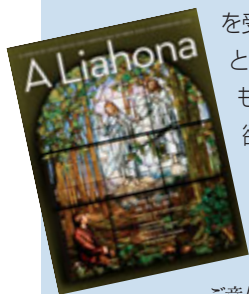
ヤニーナ・イワニナ・ダビデンコ (ウクライナ)

**慰めをもたらす経験**

わたしは『リアホナ』のメッセージや記事から多くの助けを得てきました。ストレスに囲まれた生活の中で、わたしはしばしば手を休めて、ほかの会員の人生経験を紹介している記事を読みます。

すると、必ず霊的な慰めを受け、家族とともに神とイエス・キリストのもとへ帰る新たな意欲がわいてきます。

ジョアン・カルロス (ブラジル)



ご意見、ご感想を [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) にお送りください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。



「**セミナーの祝福**」20 ページ —— 前もって記事を読み、メッセージを家族に応用する最も良い方法を決めます。セミナーに通う10代の子供がいれば、セミナーがなぜ大切かという質問から始めます。それから「約束された祝福を受ける」を読みます。幼い子供には、年齢に達したときにセミナーに出席するための準備をするよう奨励します。セミナーの年齢の子供がいなければ、記事を読んでから、現在の青少年にとってセミナーがいかに大切かについて話し合うとよいでしょう。

「**みんなブレックを知っている**」42 ページ —— 開会の歌として「正しかれ」(『賛美歌』151番)を歌うとよいでしょう。ブレックの物語を読むか、あらしを話します。様々な選択肢があって難しい決断を迫られたときと、決断のもたらした結果についての経験を家族に話してもらいます。最後にトーマス・S・モンソン大管長の言葉を読んで、締めくくります。

**素朴で、穏やかで、忘れられない家庭の夕べ**

二人の娘、6歳のアンジェリークと4歳のベサニーとともに開いたある日の家庭の夕べを忘れることができません。夫とわたしはいすに倒れ込み、何から始めたらいいのか分からないほど疲れ果てていました。すると娘たちが自分から、家庭の夕べの割り当て盤を回し始めました。司会は夫、歌はベサニー、活動はわたし、そしてレッスンはアンジェリークに決めました。

ベサニーが「神殿に行きたいな」(『子供の歌集』, 99)を選び、みんなで歌いました。パパが開会の祈りをささげました。次にアンジェリークが『リアホナ』の最新号のこどものページから、一つの記事を選びました。学校で読み方を学んでいるアンジェリークが記事を読んでくれました。家の中が穏やかな雰囲気になりました。彼女の読んでいることが真実であることを御霊が証してくださいました。

一緒にゲームをしてから、わたしが閉会の祈りをささげました。祈っている間、天の御父が御霊を遣わし、愛してくださっていること、この幼い霊たちを通して我が家を祝福してくださっていることに感謝する気持ちでいっぱいになりました。わたしたち夫婦は子供たちの世話をし、福音を教える責任があることを知っています。家庭の夕べを開くことはその神聖な責任の一部です。■

シルビー・ボウシン (フランス領レユニオン島)



管理ビショップリック第一顧問  
リチャード・C・エッジリー  
ビショップ

## あがな 贖いに希望を持つ

わたしはこれまでに、絶望の淵に追い詰められた人々に会ってきました。彼らは、悔い改めや赦しが、自分の手の届くところからはるか遠くにあると感じています。そうした人々は、贖いの持つ清めの力を理解していません。または、たとえ理解したとしても、ゲツセマネの園と十字架上でイエス・キリストがお受けになった苦しみの意義を、心でしっかりと受け止めてはいないのです。汚れた人生を清める望みを捨てることは、わたしたちの身代わりとなった主の苦しみの深さや強さ、程度を否認するのと同じです。

数年前ステーキ大会の折に、伝道資格の有無を判断するために21歳の青年を面接することになりました。現在では通常中央幹部が宣教師見込み会員を面接することはありません。これは例外的なことでした。面接事由についてこの青年の履歴に目を通したわたしは、心が痛みました。この若者はとても深刻な罪を犯していたのです。わたしは自分がこのような過去を持つ青年の面接を依頼されたのはなぜなのか戸惑いました。もし宣教師としてふさわしい人物として推薦したら、わたしにとってきわめてまれなことでした。

ステーキ大会の夜の部会が終わった後、わたしは面接をするためにステーキ会長の執務室に入りました。待っていると、風貌に恵まれた一人の青年がとても晴れやかな表情で近づいて来ました。彼は明らかにわたしと話がしたい様子でした。ひどく問題のある青年との面接を控えていたわたしは、彼にどう断ればよいか思案しました。すると、彼は自分の名前を告げました。それはわたしが面接をすることになっていた当人でした。

ほかにだれもいないその部屋の中で、わたしはこう尋ねました。「わたしはなぜあなたに面接する必要があるのでしょうか。」

人は知識と証だけでなく、贖いを自分個人のためにあると理解したうえで希望を持たなければなりません。

彼は自分の過去をとつとつと語り始めました。それが終わると、次にその後歩んだ道と味わった苦しみについて話してくれました。そして贖いについて、贖いの普遍の力について語り、証を述べ、救い主に対する愛をわたしに伝えました。そしてこう言ったのです。「救い主がゲツセマネで個人として苦しみを受け、十字架上で身をささげられたことは、わたしのような者さえも救うほどの力ある御業であったと、わたしは信じています。」彼の謙虚さと御霊によって深く感銘を受けたわたしはこう言いました。「イエス・キリストの代理人として奉仕するように、わたしはあなたを推薦しましょう。ただし一つだけお願いがあります。教会きっての最高の宣教師になっていただきたいのです。ただそれだけです。」

それから3、4か月して、わたしは妻と一緒に宣教師訓練センターで話をすることになりました。会の終わりに、宣教師たちと談笑していたときに、見覚えのある青年が目に残りました。

「わたしを覚えておられますか」と彼が尋ねました。

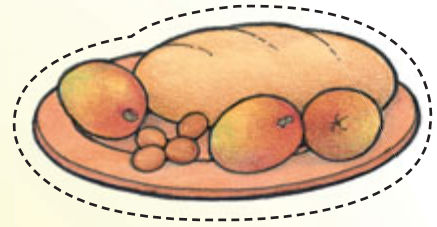
「申し訳ありません。どこかでお会いしたとは思いますが、思い出せません」とわたしは少々当惑しながら答えました。

すると彼はこう言いました。「それでは申し上げます。わたしはこの宣教師訓練センターで最高の宣教師です。」すぐに彼がだれか分かりました。

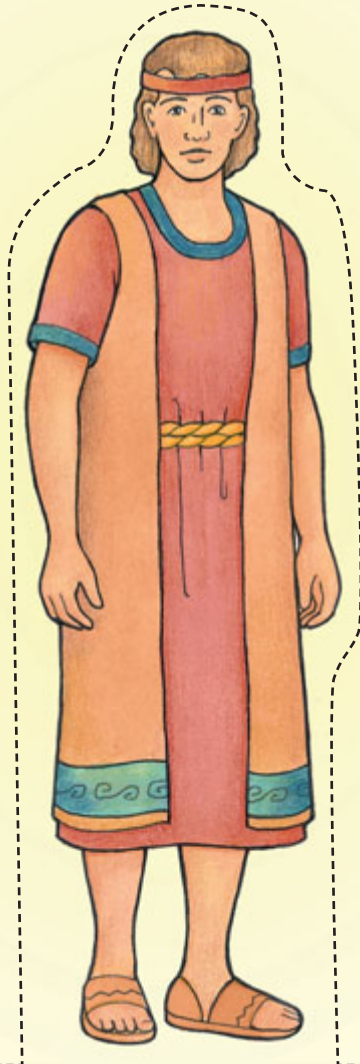
この青年は、贖いに関する知識と証だけを頼りに希望を持っていたわけではありません。この賜物が個人に与えられたものであることを土台に、希望を抱いていたのです。彼はその賜物が自分に個人的に与えられたものであることを理解していました。すべてを失い絶望的と思えるときでも、主の贖いには力があり希望をもたらししてくれることを彼は知っていたのです。■

2008年11月4日にブリガム・ヤング大学で行われた説教を基に書かれました。全文〔英語〕を読みたい方は [speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu) にアクセスしてください。

**今** 年の『リアホナ』には モルモン書に どうしようする じんぶつなどの 絵の セットが たくさん もりこまれます。じょうぶで つかいやすく するために、それぞれの 絵を 切りぬき、ボール紙や あつ紙、 小さな 紙ぶくろ、 または 工作用の ほうに、 のりか テープで はってください。ふうとうや ふくろに それを まとめて しまっておきましょう。そのとき、その じんぶつなどが モルモン書の どこに 出てくるか 分かるように ラベルを はっておくと よいでしょう。



アルマ



アミュレク



ゼーズロム

アモナイハの たみへの  
アルマと アミュレクの でんどう  
アルマ書だい 8 - 14 しょう



「皆さんやわたしが現世の旅で経験する肉体的な痛み、  
心痛、精神的な苦しみ、病や弱さのうち、  
先に救い主が経験なさらなかったものは一つもありません。  
皆さんもわたしも、自分の弱さに悩むとき、  
『だれも理解してくれない。だれにも分からない』と  
声を上げることがあるかもしれません。  
分かる人間は恐らくいないでしょう。  
しかし、神の御子はすべてを御存じであり、完全に理解しておられます。  
わたしたちが経験するより先に、  
わたしたちの苦しみを味わい、重荷を負われたからです。  
そして主は究極の代価を払いその重荷を負われたので、  
わたしたちの人生の実に様々な局面で、  
わたしたちの気持ちを完全に理解し、  
憐れみの腕を伸べることがおできになるのです。  
主は手を差し伸べ、心に触れ、助けることがおできになり、  
文字どおりわたしたちに駆け寄って、  
……強さを与え……てくださるのです。」  
「贖罪と現世の旅」12ページ参照